

第五十一回 帝國議院

關稅定率法中改正法律案(政府提出)委員會議錄(速記)第八回

大正十五年二月十二日(金曜日)午前十時三十五分開議

出席委員左ノ如シ

委員長 加藤政之助君

理事

永田善三郎君

本日ノ會議ニ上リタル議案左ノ如シ

關稅定率法中改正法律案(政府提出)

○加藤委員長

是ヨリ關稅法中改正法

律案ノ委員會ヲ開カウト思ヒマス、ソ

レデ今日ハ第一類カラ終リマデ順ヲ經

テ質問ヲ開始シタイト思フノデアリマ

ス、先づ第一類ニ付テ御質疑ノアル方ハ

御質問ヲ願ヒマス、當局ハ今迄ノ説明

大抵盡キテ居ルト考ヘルカラ、當局

カラ説明ハ致サヌ、皆様ノ御質問ニ應

ジテ應答スルト云フ事デアリマスカラ

其意味デ御質問下サルコトヲ御願ヒ致

シマス

商工省工務局長 宮内國太郎君
ノ如シ 農林書記官 井野 碩哉君
農林技師 間部 彰君
神部 爲藏君 太田信治郎君
工藤 鐵男君 飯塚春太郎君
三好榮次郎君 堤 康次郎君
中島 守利君 松本 真平君
堀切善兵衛君 山本条太郎君
佐々木文一君 長田 桃藏君
星島 二郎君 山内 範造君
高橋 光威君 沼田嘉一郎君
佐々木平次郎君 清水 長鄉君
倉元 要一君 岡田 溫君

ルナラバ一寸……
○小山政府委員 是カラ類別ニ付テ御
尋ガアリマスノニ 御答申上グマスガ、
居リマス、併シ大正七年、此施設ヲ致シ
マシタ當時ニ於キマシテハ、百萬頭ノ
計畫ヲ立テタノデアリマス、今其道程
ニ在ル譯デアリマス、併ナガラ我國毛
織物ノ現狀ヲ考ヘマシテ、尙ホ之ニモ
ウ一步ヲ進メナケレバナラスト考ヘル
次第デアリマス、尙ホ細カイ事業ノ消
ガ、要領ヲ得ルト思ヒマスカラ、ドウズ
今後御質疑ノ際ニハ、左様ナ方針ニ致シ

タイト思ヒマス、御諒承ヲ願ヒマス、只
今御尋ノ緬羊ノ事デアリマスガ、是ハ
大正七年以來其獎勵普及ノ方法ヲ講ジ
テ居リマスノデ、申上ゲル迄モナク御
承知ノ是ハ寺内内閣ノトキ、毛織物ノ
獎勵ニ對スル我ガ國策ヲ樹立シタイト
云フコトデ、議會デ大分論議サレマシ
タ、將來我ガ毛織物ノ對策トシテ、此事
業ヲ始メヤウト云フコトニナッタノデ
アリマスガ、是ハ本邦デハ明治八年大
久保内務卿以來、之ニ著眼シテ相當ニ
ニ關係ガゴザイマセヌ

○岡田委員 第八ノ家禽類ガ無稅ニ

スガ、種牡牛トカ或ハ種牡馬ト云フモ

ノハ之ニ屬スル譯デスカ

○小山政府委員 是ハ關稅法ノ先日御

審議ニナリマシタ法律案モアリマス通

リ、種馬種牛ニ屬スルモノハ此關稅法

ノ倉元委員 私ハ大藏大臣ニ御尋申上

ノデ、大シタコトハアリマセヌ

○岡田委員 是ハ極メテ僅カナモ

ナツテ居リマスガ、從來ハドウ云フモノ

ガ輸入サレタカソレヲ一寸伺ヒタイ

○小山政府委員 私ハ大藏大臣ニ御尋申上

ノデ、大シタコトハアリマセヌ

○倉元委員 私ハ大藏大臣ニ御尋申上

ノデ、大シ

ニナッテ居リマスカ、今日ノ物價以上ニハ騰貴シナイト云フ當局ハ御見込デ居リマスカ、ソレヲ私ハ参考ニ伺ヒタ

○黒田政府委員 過日何方カノ御質問ニ對シマシテ、大藏大臣カラモ此點ニ付キマシテ、御答ヲ申上ゲタコトト考

ヘテ居リマスガ、關稅ノ改正ニ依リマシテ据置キマシタモノガ全體ノ五十パーセント、半分ヲ据置イテ居ルノデアリマス、此點ハ關係ガナイガ、引上ゲタモノニハ相當アリマス、即チ内地ノ生產ヲ保護スル——關稅引上ニ依テ、内地ノ生產品ガ外國ノ品物ト競爭スル上ニ於テ不利ナルモノニ對シテ、外國品ト競爭出來ル程度ニ定率ヲ引上ゲル、保護ヲスル、是等ノモノニ付テハ一時ノ現象ト致シマシテ、其品物ノ價格ガ幾分上ゲラレルト云フコトハ免レナイト思ヒマス、併シソレ等ノ品物ガ段々生産ヲ增加シテ參リ、外國品ヲ驅逐シ内地ノ生產ガ殖エテ參ルト云フコトニナルト、御互ノ間ニ競爭ヲ生ジテ參ルノデアツテ、自然物價ハ落付イテ參リ、安クナルト云フコトモアラウト思ヒマス、唯一時ノ現象トシテ、或ル品物ニ付テハ多少騰ルト云フコトハ、内地ノ產業ヲ保護スル結果トシテ已ムヲ得ナイ現象デアラウト考ヘルノデアリマス、又或ル品物ニ付テハ、關稅率ノ引上ガアリマシテモ、ソレダケ價格ノ騰ラナイモノモアラウト思ヒマス、是ハ大

藏大臣モ例ニ御引キニナッタノデアリマスガ、贅澤稅ノ關係ニ於テ、從價稅ヲ付キナリマスガ、關稅ノ改正ニ依リマス、此點ハ等ノ品物ノ價格ト云フモノガソレダケ等ノ品物ノ價格ト云フモノガソレダケ云フコトノ騰貴ニナッテ居ルノデアリマス、品物ニ依テハ却テ從來ヨリモ安クナルコトモアル、外國カラ參リマスモノガ關稅ヲ上ゲマスレバ、向フデ價ヲ下ゲテ來ルト云フコトモアル、結局政府ノ收入ハ關稅ノ増加ニ依テ殖エマスガ、併シ向フガ此値ヲ下ゲテ來マスレバ、外國ニ支拂フ金ハ少クナル、消費者ニハ從前ヨリモ安イト云フ現象ヲ呈スルコトモアルノデアリマス、是ハ一概ニハ申サレマセヌガ、唯或ル品物ニ付テ前申シマスヤウニ生產保護ノ結果ト致シマシテ多少影響ヲ生ズルダニ、外國ニ支拂フ金ハ少クナル、消費

者ニハ從前ヨリモ安イト云フ現象ヲ呈スルコトモアルノデアリマス、是ハ結果ト致シマシテ、一時多少騰貴致スコトモアリマス、併ナガラ其事業ヲ保護スルト云フ目的カラ申シマスト、相當ノ効果ガアルト云フ風ニ考ヘテ居ル次第デアリマス

○倉元委員 只今承リマスト、全體ノ關稅品目ヲ通ジテ五割ト云フモノハ据置ニナッテ居ルカラ、大體ニ於テ物價ハ騰ラナイ見込ヲ付ケテ居ル、一時ハ騰ルカモ知レヌガ、後ハ相當ニ大量生産業ヲ保護スル結果トシテ已ムヲ得ナ

イ現象デアラウト考ヘルノデアリマス、又或ル品物ニ付テハ、關稅率ノ引上ガドコマデ生産費ヲ輕減シテ、日本ノ見込ンデ居ル譯デアリマス、私共ノ見

アリマスガ、私共ハ今回ノ關稅定率ノ引上ニ依テ、據置ニナッテ居ル品目モ其勢ヒニ驅ラレテ昂騰スルモノト私共ハ

云フ所マデ正確ニ見積ルコトハ出來ナ

カッタノデアリマス

今回ノ定率改正ニ依テ保護サレタ品目ニ對シテ、ドコマデ競爭ガ出來ルカト云フコトニ付テ御調查ニナリマシタカ、詰リ私ノ申上ゲルノハ、外國品ガ何處マデ生產能率ヲ舉ゲルカト云フギリノ所マデ御調查ニナッテ居ルカ、今度ノ改正ニ依ル日本品ノ恩惠以上ニ競爭ガ出來テ、折角保護ナサッタ御苦心ニ副ハナイカト云フコトヲ伺ヒタイ

○黒田政府委員 是ハ洵ニムヅカシイ問題デアリマシテ、調查ヲ致シマスル結果ト致シマシテ多少影響ヲ生ズルダニ、外國ニ支拂フ金ハ少クナル、消費

者ニハ從前ヨリモ安イト云フ現象ヲ呈スルコトモアルノデアリマス、是ハ

結果ト致シマシテ、一時多少騰貴致スコトモアリマス、併ナガラ其事業ヲ保

護スルト云フ目的カラ申シマスト、相

當ノ効果ガアルト云フ風ニ考ヘテ居ル次第デアリマス

○倉元委員 只今承リマスト、全體ノ關稅品目ヲ通ジテ五割ト云フモノハ据

置ニナッテ居ルカラ、大體ニ於テ物價ハ騰ラナイ見込ヲ付ケテ居ル、一時ハ騰

ルカモ知レヌガ、後ハ相當ニ大量生産

業ヲ保護スル結果トシテ已ムヲ得ナ

イ現象デアラウト考ヘルノデアリマス、又或ル品物ニ付テハ、關稅率ノ引上

ガアリマシテモ、ソレダケ價格ノ騰ラ

ナイモノモアラウト思ヒマス、是ハ大

アリマスガ、私共ハ今回ノ關稅定率ノ引上ニ依テ、據置ニナッテ居ル品目モ其

勢ヒニ驅ラレテ昂騰スルモノト私共ハ

云フ所マデ正確ニ見積ルコトハ出來ナ

カッタノデアリマス

○倉元委員 モウ一ツ私審議ニ這入ル
前ニ参考ニ伺ヒタイノハ、從量ト從價
トヲ區別ナサル基準ハドコニアルノデ
アリマスカ、是ハ徵稅上ノ便宜カラ御
別シタ御説明ヲ願ヒタイ

○黒田政府委員 從量稅ニ致シマスノ
ハ、價額ノ大體——即チ其品物デ餘リ區
々ニ瓦テ居リマセヌ、大體ニ於テ統一
シテ居リマスル品物ニ付テ、而モ相當
輸入ガアリマシテ、輸入價額ノ算出ガ
出來ルモノ、大體平均產額ガ是レ位ア
ルデアラウト云フモノニ付キマシテハ
從量稅ニ致シタノデアリマス、餘リ區
々ニ瓦テ居ルヤウナモノニ付テハ從
價稅ニ止メル、或ハ輸入價額ガ少クシ
テ平均ノ價額ヲ得ルニ困難デアルト云
デアリマス、ソレカラ從量稅ニスルニ、
徵稅上ノ便宜カラ來ル——カト云フ御
尋デアリマスガ、勿論從量稅ハ從價稅ニ
比シテ便利デアル、其際ニ於テドウ云フ
コトヲ評定ニスルカ、是ハ隨分深刻ニ
間違ッタコトモ多イノデアリマシテ、之
ヲ評定致シマスコトニ付テ非常ニ面倒
ガアリマスカラ、ソレノミナラズ輸入
者ノ方ニ於キマシテモ、從量ナラバ幾
ラ々々ノ稅ガ掛カルト云フコトガ、ビ
チット分ルノデアリマスカラ、其品物ガ
内地ニ這入ッテ幾ラニナルト云フ價格
ヲ算出スル上ニ於テ大變便利デアリマ
ス、從價稅デアルト稅關デドレダケニ

評定スルカト云フコトハ分ラナイ、故
ニ正確ニ輸入業者ニハ分ラヌ譯デアリ
マス、這入ッテ來テ稅ヲ掛ケテ見ナケレ
バ、果シテ是ガ幾ラノ物ニナルト云フ
見當ハ付ケ惡イノデアリマス、ソレヲ
從量稅デアレバ初メカラ自分で計算シ
タモノデ直ニ分ルノデアリマスカラ、

○黒田政府委員 御尋ノ通リ輸入品ニ
マス、モウ一ツ從量稅ニ致シテ置キマ
スルト、先程一寸申シマシタ通リニ、非
常ニ值段ヲ安クシタト云フヤウナ場合
ニハ稅金ガ掛カラナイ、若シ從價稅ナ
ラバニ割ナラニ割デ大抵宜カラウト云
フモノニ付テ、非常ニ價ヲ下グテ來マ
スト稅金モ安イモノニナッテ來ルト云
フ關係モアルノデアリマス、隨テ從量
稅ノ方ガ從價稅ヨリモ色モノ點カラ見
マシテ便利デアリマスガ、併シ是ハ從
量稅ニ致シマスルノニハ、前申シマス
ヤウナ狀況ノモノデナイト出來マセヌ
カラ、御覽ノ通り從量稅ニ致ス方針ヲ
大體執リマシタガ、全體ノ數カラ申シ
マスルト餘リ増シテ居ラナイノデアリ
マス

○倉元委員 モウ一ツ徵稅上ノコトニ
付テ御尋致シテ置キマスガ、品目ニ依
リマシテ、品種ノ認定ノ甚ダ疑ハシイ、
上ニ於テ困難ナモノガアルノデアリマ
ス、其他分類ニ付キマシテモ、解釋上ニ
於キマシテサウ云フ風ナ疑義ガ起ルモ
ガ這入ッテ來マシタ場合ニ於テ、時ニ稅
シテ、問題ニナリマシタモノニ付テハ、稅
スルト云フト、滿洲カラ驢馬ヲ輸入シ
タ人ガアル、馬ノ稅金ヲ掛ケラレルト

○倉元委員 モウ一應伺ヒマスガ、競

○倉元委員 御尋ノ通リ輸入品ニ
對シマシテ、何レノ稅率ヲ適用スルカ、
凡ソドコニ分類スルカト云フコトハ、
常ニ値段ヲ安クシタト云フヤウナ場合
ニハ稅金ガ掛カラナイ、若シ從價稅ナ
ラバニ割ナラニ割デ大抵宜カラウト云
フモノニ付テ、非常ニ價ヲ下グテ來マ
スト稅金モ安イモノニナッテ來ルト云
フ關係モアルノデアリマス、隨テ從量
稅ノ方ガ從價稅ヨリモ色モノ點カラ見
マシテ便利デアリマスガ、併シ是ハ從
量稅ニ致シマスルノニハ、前申シマス
ヤウナ狀況ノモノデナイト出來マセヌ
カラ、御覽ノ通り從量稅ニ致ス方針ヲ
大體執リマシタガ、全體ノ數カラ申シ
マスルト餘リ増シテ居ラナイノデアリ
マス

○倉元委員 モウ一ツ徵稅上ノコトニ
付テ御質問ヲ願ヒマス
○加藤委員長 小麥ノ方ハ第二類ニ這
入ッテ御質問ヲ願ヒマス
○長田委員 今日伺ヒマシタ、アノ競
馬用ノ馬ハ結局最後ノ目的ハ種馬ニナ
ルノデアリマスガ、アレハ矢張種馬ト
シテ御認ニナルカ、此稅種ノ中ニ這入
リマスカ
○小山政府委員 先刻御答申上ゲマシ
タガ、競馬用ノ馬ハ這入ッテ居リマセ
ヌ、種馬ト申告致シマシタモノハ無稅
ニナリマス

馬用トシテ主務省ノ御認可ヲ經テ、濠洲產ノ「サラブレ」ナドヲ入レルノデアリマスガ、アレハ競馬用トシタ場合ニハ課稅セラレテ、究極ノ目的ノ種馬ニナルト云フ意味ガ表示サレタルト云フ結果ニナルモテハ、免稅サレルト云フ結果ニナルモト諒解シテ宜シウゴザイマスカ

○小山政府委員 輸入致シマストキニ農林大臣ノ認可ヲ經、若クハ申告致シタルモノニナツテ居リマス

○長田委員 其第二ノ點ヲモウ一應伺ツテ置キタイト思ヒマス、ソレハ競馬用トシテ御認可ヲ經タ場合ニハ課稅サレルシ、ソレカラ種馬用トシテ御認可ヲ經ルコトガ出來マスレバ、是ハ無稅ニナルト了解シテ宜シイノデアリマスカ、第一目的ハ競馬ニ使ツテモ、申請スルトキニサウ云フ風ニ申請シタラ、無稅ニナルト了解シテ宜シウゴザイマスカ

○小山政府委員 此現行法ト改正法トノ法律案ノ第七條ノ第二十三ヲ御覽下サイマスト……

○長田委員 見テ居リマス、見テ居リマスガ、私ノ申シマスノハ、競馬用ノ馬ハ競馬ニ使用後ハ、多クノ場合種馬ニナルト私ハ想像シテ居リマス、デアルカラ種馬ノ目的カラ結局是ハ獎勵シテモ輸入シナケレバナラヌ日本現狀ノ產馬改良ノ狀態ニ在ルノデアリマス、縱令競馬ニ使用スルト云フノガ第一次ノ目的デアツテモ、第二次ノ目的ハ矢張種馬

ニナルノデアリマス、ソレデ種馬使用ト云フ意味デ、主務省ノ認可ヲ經タナリマスガ、アレハ競馬用トシタ場合ニラバ、是ハ無稅ニナルト了解シテ宜シウゴザイマスカ

○小山政府委員 御質問ノ通リデアリマス

○山内委員 一昨々日デアリマシタカ、同僚星島君カラ參考資料トシテ要求シテ居リマシタ、產業ニ從事シテ居各會社ノ生產能率其他ヲ表ニシテ戴キタイト云フコトヲ要求シテ居リマシタガ、マダソレハ出來ナイノデアリマスカ

○柵瀬政府委員 只今御尋ノ事ハ星島君ガ御見エニナツタラバ、私カラ御答ヲシヤウト思ツテ居ツタ所デアリマス、一昨日、個人若クハ法人組織ノ工場ニ於テ、五百萬人見當若クハ以上ト云フ御話デアツタト思ヒマス、ソレ等ニ對シテ此關稅改正ニ依テ與ヘル所ノ利害ハドウ云フコトニナルカ、其表ヲ欲シイト云フ御話デアリマシタ、色々考ヘマシタガ、中ミ非常ナ手數ヲ要スルコトニ

○小山政府委員 見テ居リマス、見テ居リマスガ、私ノ申シマスノハ、競馬用ノ馬ハ競馬ニ使用後ハ、多クノ場合種馬ニナルト私ハ想像シテ居リマス、デアルカラ種馬ノ目的カラ結局是ハ獎勵シテモ輸入シナケレバナラヌ日本現狀ノ產馬改良ノ狀態ニ在ルノデアリマス、縱令競馬ニ使用スルト云フノガ第一次ノ目的デアツテモ、第二次ノ目的ハ矢張種馬

ニナルノデアリマス、ソレデ種馬使用ト云フ意味デ、主務省ノ認可ヲ經タナリマスガ、アレハ競馬用トシタ場合ニラバ、是ハ無稅ニナルト了解シテ宜シウゴザイマスカ

○小山政府委員 御質問ノ通リデアリマス

○山内委員 ソレデハ今星島君ガ居マカ、同僚星島君カラ参考資料トシテ要求シテ居リマシタ、產業ニ從事シテ居各會社ノ生產能率其他ヲ表ニシテ戴キタイト云フコトヲ要求シテ居リマシタガ、マダソレハ出來ナイノデアリマスカ

○柵瀬政府委員 只今御尋ノ事ハ星島君ガ御見エニナツタラバ、私カラ御答ヲシヤウト思ツテ居ツタ所デアリマス、一昨日、個人若クハ法人組織ノ工場ニ於テ、五百萬人見當若クハ以上ト云フ御話デアツタト思ヒマス、ソレ等ニ對シテ此關稅改正ニ依テ與ヘル所ノ利害ハドウ云フコトニナルカ、其表ヲ欲シイト云フ御話デアリマシタ、色々考ヘマシタガ、中ミ非常ナ手數ヲ要スルコトニ

○小山政府委員 蜂蜜ハ園藝ナドノ進歩ニ伴ツテ原料ガ出來ルノデアルカラ、多少獎勵シテモ宜カラウカト想像致スノデアリマスガ、内地ニ對シテハ大シテ獎勵スル價値ハナイモノデスカ、其御見込ハ如何デアリマスカ

○岡田委員 蜂蜜ハ園藝ナドノ進歩ニ伴ツテ原料ガ出來ルノデアルカラ、多少獎勵シテモ宜カラウカト想像致スノデアリマスガ、内地ニ對シテハ大シテ獎勵スル價値ハナイモノデスカ、其御見込ハ如何デアリマスカ

○小山政府委員 只今御尋ノ蜂蜜ハ獎勵致シテ居リマス、殊ニ最近此蜂蜜専門ノ技師ヲ海外ニ派遣致シマシテ、優良種ヲ日本ニ入レテヤラウト云フノデ、今ハマダ其道程ニ在ルヤウナ譯デ、御質疑ノ通リノ方針ヲ有シテ居リマス

○加藤委員長 ソレデハ第一類ニ付テハ質問ハアリマセヌカ——ナケレバ是カラ第二類ニ移リマス、第二類ニ付テハ太田信治郎君

○太田委員 一々ニ付テ質問致シマス

○山内委員 ナ手數ヲ要スルノデアリマス、各稅番ノモ面倒デスカラ、此二類ニ含マレテ居ルモノヲ總括シテ質問ヲ致シタイト

○山内委員 其星島君ガ要求致シテ居マシタル参考資料ハ、私等ガ考ヘテノデ、其御審議ヲ願フ場合々々ニ、御話

思ヒマス、先ヅ農產物ノ米、大豆、小麥ト云フヤウナ物ニ付テ伺ツテ見タイトハ、政府ノ御方針ハ是マデ屢御説明ニナツテ居リマス所ニ依リマスト、國民ノ生活ノ安定、又重要產業ノ保護課稅ノ均衡ト云フヤウナコトニナツテ居ルノデスペキ相當ナ機關ガ實際ニアルノデ、サアリマスガ、大體此米ノ如キ物ニ付テハ、ウシテ見レバ、關稅ヲ之ニ掛ケテ產業ヲ保護指導スルト云フヤウナコトハ必要ナイデハナイカト思フ、其他小麥、大豆依ルト、農村ニ於テハ此關稅ノ引上ヲ希望シテ居ル、其所以ハ、到底現在ノ價格ニ於テハ其收支ノ償ハザル爲ニ產業ガ發展シナイカラ、之ニ保護ヲ加ヘテ農村ノ振興ニ資スルトカ云フヤウナクトデゴザイマスレバ、現在ノ此課稅標準デハ、產業保護ニハナラナイカノ如キ感ヲ致スノデアリマス、併ナガラ政府ガ之ニ關稅ヲ御置キニナツタ意味ハ、所謂產業保護ノ方針ノ爲ニ此關稅ヲ御置イタト云フ意味デアリマセウカ、又一面カラ申シマスレバ、所謂國民生活テ價ヲ低下セシメテ、而シテ生活ノ安定ト云フヤウナ上カラ申シテ、斯ノ如キ重要な食糧品ハ、關稅ヲ撤廢シテ價ヲ低下セシメテ、而シテ生活ノ安定ヲ得セシメルト云フ方ガ、社會政策

的見地カラ云ヘバ最モ必要デハナイカ
ト思フ、サウスルト社會政策的立場カ
ラ申セバ、寧ロ撤廢ヲ希望シ、若シモ產
業保護ト云フ上カラ云ヘバ、農村ニ於
テハ是等ノ課稅デハ產業保護ニ不十分
デアル、斯様ナコトニナルト、政府ノ見
方ハ何レニ在ツテ、是ダケノ稅ヲ課スル
ノデアリマスカ、關稅改正ヲ以テ直ニ
我國ノ經濟政策ノ全部ヲ解決スルト云
フヤウナコトノ間違ッテ居ルト云フコ
トハ無論ノ話デアリマス、サレバソレ
ニ依テ經濟政策ヲ云々スル次第デハア
リマセヌケレドモ、大體ニ於テ現在ノ
社會狀態カラ申シマスレバ、國民ノ生
活ノ安定ト云フコトガ、一番差迫ッテ居
ル問題デハナイカト私ハ思フ、國民生
活ノ安定ト申シマシタ所デ、其内容ハ
ドウデアルカト申セバ、衣食住ノ三ツ
ガ真先ノ問題デアリ、又緊急ナル問題
デアル、其中ニ於テモ、特ニ食糧ガ重要
問題デアリマスガ、サウスルト此收支
ノ均衡ガ保テナイト云フコトガ生活ノ
不安定ヲ來スノデアリマス、現在ノ勞
働者ガ屢争議ヲ起シ、或ハ思想ガ悪化
シテ行クト云フヤウナコトモ、要スル
ニ收支ノ均衡ヲ得ナイト云フコトガ、
一番生活問題ニ直面シテノ問題デア
ル、サウスルト此農產物ノ價格ガ、多少
デモ保護關稅ニ依テ引上ゲラレルト云
フコトニナル、其生活費ノ増加ト云フ
コトハ直ニ生活ノ不安定ト云フコトニ

ヲ引上ゲレバ宜シイト云フヤウナ御説
モ伺^ツテ居リマスルガ、私共ハ甚ダ之ヲ
不審ニ思フノデアリマス、所ガ大體ニ
於テ農村ノ有様ヲ見ルト、所謂無產階
級、全ク其勞働ニ依テ衣食シテ居ル人
ト、ソレカラ半分ハ有產者、半分ハ無產
者ト云フヤウナ、所謂僅カナル田地ヲ
有シテ居ル所ノ小農ノ人々ヲ觀察スル
ナラバ、農村ノ約七割ハ無產者若クハ
半無產者ニ屬スル人デアラウト思フ、
是等ノ人々ハ多少農產物ヲ高ク賣^ツテ
モ、不足ノ物ハ買ハナケレバナラヌ、サ
ウスルト結局ニ於テ、農產物ヲ賣却シ
タ費用ヨリモ、購入シタ費用ノ方ガ多
イト云フコトニナルナラバ、生活ノ不
安ヲソレ等ノ人々ニ感ゼシメルノデ
食糧ノ騰貴スルト云フコトハ決シテ農
村ノ勞働階級ノ喜ブ所デハナイダラ
ウ、少數ノ有產階級ノ利益ニハナルガ
無產階級又ハ半無產階級ノ利益ニハナ
ラナイ、一面ニ於テ農村ノ勞働階級ノ
生活ト云フモノハ、教育ノ進ムニ從ヒニ
文化ノ普及スルニ伴レテ生活ガ向上致
シマス、隨テ收入ノ增加ト云フコトヲ
ナラヌ、生活費ガ低下シナケレバ、收入
ガ假リニ増加シタ所デ、當ニ生活費ニ
追懸ケラレテ、困難ナ立場ニ陥ル、斯様
ナ例ハ農產物ニ於テモ私ハ見ラレルダ

ラウト恩フノデアリマス、重要產物ノ生絲ノ如キモ、價格ガ騰貴シテモ、勞働賃銀ガ高クテハ、矢張引合ハナイ、一面ニ於テ勞働賃銀ノ安いト云フコトハ直ニ生絲ノ收益ニ關係ヲ持ツモノデアル、又木材ノ如キモサウデアリマシテ、木材ノ問題ハ餘リ農村ノ振興ト云フコトニ付テハ觸レナイヤウデアリマスルガ、現在ニ於テ一億二千萬圓ト云フ木材ヲ海外カラ輸入シテ居ルガ、是ハ日本ニ木材ガ無イノデハナイ、日本ノ蓄積木材ハ十四億萬石以上アルノデアリマス、ソレガ引合ハナイト云フノハ、所謂農村ノ勞働賃銀ガ高イ爲ニ、外國材ト競争スルコトガ出來ナイ、農村ノ勞働賃銀ノ高イト云フコトハ何デアルカト云フト、農村ノ生活費ガ高イ、薪炭ニシテモ其通り、畜産ニシテモ其通り、勞働賃銀ノ高價ナ爲ニ是ガ事業ガ振ハナイ、振ハナイトスルト一面ニハ農村ニ於テハ勞働收入ヲ得ルコトガ出來ナイ、農事ノミデハ足ラナイ、何レモ農村ノ勞働者ハ他ノ事業ニ從事シテ——他ノ勞働ニ從事シテ生活ヲシテ居ルノデアル、其他ノ勞働ガ興ラナイト云フコトハ、直ニ彼等ノ生活狀態ニ影響ヲ及ボシテ來ル、斯ウ云フ意味カラ參リマスト云フト、此農村ノ振興ト云フコトガ、農村產物ノ價ノ引上ニノミアルモノトハ私ハ思ハナイ、サウシテ此現在ノ關稅ニ在ル所ノ農產物ノ定率ヲ、更ニ之ヲ引上ゲントスルガ如ク聞イテ居リマス

ガ、私共ハ寧ロ之ヲ撤廢スルカ、然ラズ
ンバ現在ノ狀況ヨリ引下ゲルコトガ私
ハ必要デハナイカ、既ニ殊ニ此米ノ如
キハ、先刻モ申上ゲマシタ通り、調節機
關ガアルトシテ見レバ、茲ニ存シテ置
クノ必要ハナイ、寧ロ農村ノ收入ヲ増
加スル方ニ於キマシテハ、質ヲ改良シ、
若クハ量ヲ増シ、增收ヲ圖フテ價ヲ下ゲ
テ金ヲ餘計取ル、左様ナコトデナケレ
バナラヌト思フ、又此機械設備ノ如キ、又
是ハ工業上ノ相當ナル技倆ヲ要シ、又
相當ノ資本ヲ要スル次第アリマス
ガ、兎ニ角……

於テハ相當ノ歩減リガアル、歩減リヲ
見込ンデ其儘ニ御置ニナッタノデアラ
ウト思フ、若シソレガ一層此小麥粉ノ
關稅ニ變動ヲ來シマスヤウナ點ガアリ
トスルナラバ、隨テ此小麥粉ノ價格ニ
影響ヲ及ボサナケレバナラヌ、是ハ由
由敷問題ガ又其所ニ起ルノデアル、更
ニ物價ノ騰貴ト云フヤウナコトガ、私
ハ起ルデアラウト思フノデアリマス、私
ガ要スルニ此食糧品ニ對シマス所ノ關
稅ノ政府ノ根本方針ハ、社會政策ノ見
地ヨリシテ之ヲヤル、農村ノ保護ノ見
地ヨリ是ダケノ關稅ヲ御置ニナッタ次
第デアリマスカ、若クハ社會政策的ノ
見地ニ戻ツテ、更ニ之ヲ引下ゲルヤウナ
御考ハアリマセヌカ、ソレヲ伺ヒタイ
ト思ヒマス

田君ノ色ニ御述ベニナリマシタヤウナコトハ、洵ニ御尤ト思ヒマスガ、サウ云フ風ナ見地ヨリ、成ベク安ク之ヲ供給シタイ、又一方ニ於キマシテハ、是等ノモノガ我國ニ於キマシテ、今日相當ノ生産ヲサレテ居ルノデアリマシテ、小麥ニ致シマシテモ、大體土地ニ依テ多少ノ増減ハアリマスガ、五十萬町歩位ノ耕作面積ニ栽培ヲサレテ居リマス、サウ云フ風ナ狀況デアリマシテ、而モ是ハ農家ノ重要副產物ノ主要ナルモノニナッテ居ルノデアリマス、是等ノモノノ現狀カラ見マシテ、ソレ等ノ生産ニ對シテ脅威ヲ及ボスト云フコトハ、避ケナケレバナラヌト思ヒマス、ソレ故ニ生産並ニ消費ト云フ兩方面カラ見マシテ、是等ノ間ヲ調和スルト云フ見地カラ致シマシテ、現行ノ税率ヲ据置イタノデアリマス、即チ簡單ニ申上ゲマスレバ、是等ノ税率ヲ尙ホ消費方面ノミカラ見マシテ、モウ少シ輕減スルコトガ宜イデハナカラウカト云フ風ナ、只今ノ御意見モアッタヤウデアリマスガ、成程消費ノ方面ノミカラ見マシタナラバ、或ハ是等ノ麥及小麥ト致シマシテハ、或ハ味噌ノ原料トナリ、或ハ醤油ノ原料トモナリ、又直接消費モサレマス、又小麥粉トナリマシテハ、是ガ色ニナル食料トシテ消費サレルト云フヤウナ現狀カラ見マスト云フト、消費ノ方面ノミカラ見マスレバ、成ベク安クスル主義カラ致シマシテ、關稅ヲ撤

廢スルカ、或ハ輕減スルト云フコトモ
必要デアラウト思ヒマス、併ナガラソ
レハ單ニ消費ノ方面ノミカラ見マシタ
ノデアリマシテ、現在農村ニ於キマシ
テ、五十萬町歩ノ耕作面積ヲ以テ生産
ヲサレテ居ル、而モ是等ノモノノ需要
ハ、將來段々増シテ來テ、小麥粉トナリ
マシテハ、今日ノ消費ノ狀況カラ見マ
シテモ、既ニ八百萬圓位ニナツテ居ルノ
デアリマスガ、將來是ガ九百萬圓ニナ
リ、千萬圓ニナルト云フ風ニ、段々增加
シテ來ルベキ趨勢ニ在ルノデアリマ
ス、是等ノ内地ニ於テ生産ヲ致シテ居
ル方面カラ見マスレバ、是等モ相當保
護シテ行カナケレバナラヌ、併ナガラ
是モ亦内地ノ生産ノ方面ノミカラ見マ
シテ、保護ノミカラ見マスレバ、或ハ是
等ヲ引上ゲルト云フコトモ一ツノ見方
モ知リマセヌガ、左様ニ致シマスト云
フト、消費ノ方面ニ又影響ヲ及ボシテ
來ルト云フコトニナルノデアリマス、
又はハ獨リ消費ノ方面ノミナラズ、小
麥ノ生産ニ付キマシテハ、是ガ世界的
ノモノデアリマス、是ハ申上ゲル迄モ
ナク御承知ノ通りデアリマスカラ、詳
シクハ申上ゲマセヌガ、亞米利加ニ於
キマシテモ、濠洲ニ於キマシテモ、非常ニ
ナル多量生産デアッテ、世界的ノ共通ノ
今日ハ生活ノ必需品ニナツテ居リマシ
テ、非常ニ多量ノ生産ガ出來、又非常ニ
安ク出來ルト云フヤウナ狀況デアリマ
スカラ、是等モ考ヘマシテ、非常ナル高

イ關稅ヲ以テ、内地ノ生産ヲ何所迄モ保護シテ行クト云フコトハ、是ハ又餘程考ヘモノデアラウト思ヒマス、サウニフ風ニ生産竝ニ消費ノ兩方面カラ見マシテ、現在ノ税率ヲ据置クコトガ滴様ナ次第デアリマスガ、米ニ付キマシテハ特ニ米穀法ガアリマシテ、内地ノ生産ノ狀況、價格ノ關係、色々ナ關係カラ致シマシテ、之ヲ保護シ得ル權限ヲ米穀法ニ依テ與ヘテアルノデアリマスカラ、此税率ハ特ニ茲ニ之ヲ變更致シマセヌデモ、時ニノ時勢ニ應ジマシテ必要ナル變更ヲ爲シ得ルコトニナッテ居ルノデアリマス、ソレ等ノ點モ考慮致シマシテ、又其生産ノ狀況ヲ考ヘマシテ、現行ノ税率ヲ据置イタノデアリマス、小麥粉ニ付キマシテ御話デアリマシタガ、小麥粉ニ付キマシテハ、農村ニ於テモ近來水車トカ電氣トカ云フ方方法ガ段々機械製粉ニ變ツテ參リマシテ、非常ナ生産能力ヲ持ツテ居リマス、是等ノ小麥ガ内地デ不足シテ、小麥ヲ入レルニシテモ、セメテハ小麥粉ダケハ内地デ十分ニ自給自足ヲサセタイト考ヘテ居ルノデアリマス、ソレ故ニ小麥ノ關稅ヲ現行ノ通り百斤七十七錢ニシマスナラバ、ソレ等ノ生産ノ費用等ヲ考ヘマシテ、勿論歩減等モ考ヘマシテ、現在ノ開キガアルコトガ小麥粉ノ生産上必要デアル、必シモ今日其開キガ大キ

過ギルトモ考ヘナイノデアリマス、又今日ノ開キヲ少クスル、即チ言換ヘバ小麦粉ノ關稅ヲ尙ホ下ゲルト云フコトハ、折角自給自足ノ域ニ達セントシテ居リマスル生産ニ對シテ、不利益ヲテ麥粉ニ付テモ同様ニ現行ノ稅率ニ据置クコトガ適當デアルト考ヘテ居リマス、即チ只今御話ノアリマシタ通り、小麦粉ノ稅率ガ假ニ動クト致シマスレバ勿論ソレニ應ジテ小麦粉ニ付テモ考慮シナケレバナラヌモノデアラウト私ハ考ヘテ居リマス、併スガラ小麦ノ稅率ヲ据置クコトガ適當ト考ヘマスカラ小麥粉モ現行ノ通リ据置イタノデアリマス

バナラナイ事ト考ヘマスケレドモ、今御話ノ通り世界ニ於ケル產額ト云フモノニ到底我國ノ現在ノ所デハ百分ノ一ニモ満タナイヤウナ有様デアル、斯様ナ事デアリマスト、是ガ現在ノ關稅ノ障壁ニ依テ、所謂關稅ノ保護ニ依テ自給自足シテ行ニマデニ到達スルコトハ、頗ル至難ナ問題デハナイカ、此頃聞ク所ニ依レバ、小麥粉ハ實際現在ノ價格ニ於テハ引合ハナイ、一年草ダカラ引合ヒサヘスレバ作レル、作レルノダケレドモ價格ガ引合ハナイ爲ニ作ラナイト云フヤウナコトデアリマスト、假ニ此關稅デアッテハ、引合ハナケレバ何時マデモ產業ヲ助長シテ行クコトガ困難デアル、併ナガラ政府ノ見ル所デハ其產業ヲ徐々ニ増殖シ得ラレル、質ノ改良若クハ耕地ヲ改善致シテ自給自足シテ行ク域ニ至ルト、斯様ニ御覽ニナッテ居リマスガ、此點ニ付テハ過日來屢御意見ガ出テ居ルヤウデアリマスケレドモ、要スルニ世界ノ大勢ニ逆行シテ、我國ガ關稅ノ障壁ニ隱レテ產業ヲ發達セシムルト云フコトハ、假ニ小麥ガ自給自足シテ行ツテモ、海外ノ相場ガ安ケレバ直ニ引合ハナイヤウニナル、斯様ナ事デアレバ如何ニ助長シテモ見込ガナイデハナイカ、併ナガラ此程度ニ於テ增收ヲ圖ルベキ見込ガアルトスレバ誠ニ慶スペキ事デアルト思ウ、斯様ニ私ハ思フ

米穀法ニ依テ其年ノ狀況等ニ對シテ適當ナ手段ヲ執リ得ルコトニナツテ居ルナラバ、此關稅ハ無クテモ宜イヂヤナリカト云フ御質問ノヤウニ承リマシタガ、米穀法ニ於キマシテハ其年ノ狀況ニ依テ適當ナ手段ヲ執リ得ルノデアリマシテ、原則トシテハ矢張現行ノ關稅ガアルト云フコトハ、内地ノ麥作ヲ現狀ニ保護スル上ニ於テハ必要デアルト云フコトニ考ヘテ居リマス、隨テ原則ト致シマシテハ百斤一圓ト云フ稅率ハ必要デアラウト云フ考デ居リマス、ソレカラ小麥ニ付キマシテ、關稅ノ障壁ニ依テ自給自足シ得ルヤウニ發達シ得ルモノナラバ、格別デアルガ、若シ内地デ自給自足ガ出來ナイモノナラバ、寧ロ此障壁ヲ撤廢シテ、安イ小麥ヲ輸入シテ消費者ニ供給スルガ宜イヂヤナイカト云フ風ナ御意見ノヤウニモ承リマシタガ、内地ノ小麥ニ付キマシテハ、尙ホ今日ニ於テ五十萬町歩内外ノ耕作面積ガアリマス、ソレ等ノ生産ガアリマスシ、又一方カラ見マスレバ或ハ品質ノ改良、或ハ耕作方法ノ改良ト云フコトニ依テ尙ホ生産ヲ増加シテ行クコトモ出來ル、又一方ニハ氣候ノ關係上作リ得ル場所ニ於キマシテハ、尙ホ小麥ノ收穫ヲ改良シテ行キマスレバ、段々増收シテ參ルコトデモアラウト思ヒマス、又將來開墾サレル土地ニ於テモ、是等ノモノガ作付サレルコトニモナラウト

コトハ或ハ困難デアルト致シマシテ
モ、今日ノ現状ヲ維持シ、尙ホ是等ヲ改善シテ増殖ヲ圖ッテ行クト云フコトハ、
一方ニ於キマシテハ小麥作ノ改善獎勵ト云フ施設ト相俟テ爲シ得ルコトデア
リマスカラ、自給自足ガ近キ將來ニ於テ出來ナイカラト云ッテ、直ニ關稅ヲ撤
廢スルト云フコトハ早計デハナイカト
考ヘルノデアリマス、仍テ現行ノ稅率ヲ据置イテ、一方ニハ改良ヲシテ行クト
云フコトガ必要ノヤウニ考ヘテ居ルノデアリマス

ニ示サレテ、消費者ノ爲ニハ是マデ消費者ヲ保護シナケレバナラヌ、生産者ニ向ツテハ、ドウ云フ手段ニ依テ之ヲ保護スル積リデアルカ、若シ保護ガ出来ナイ、萬已ムヲ得ナイモノナラバ放棄スル、自給自足ハドウ云フ手段デヤル、斯ウ云フ明カナル決心、回答ヲ得ナケレバ、今日ノ生産者ト云ヒ、消費者モ承知ガ出来ナイコト思フ、ソコデ私ハ明カナル決心ヲ聞キタイト思フノデアリマス、例ヘバ小麥粉ニ例ヲ取ルノガ最モ好イ例デアリマスカラ、之ニ例ヲ取ツテ見マス、例ヘバ小麥粉ト云フモノハ今日一圓八十五錢ノ税率ニナッテ居ル、政府ハ一圓八十五錢ノ關稅ヲ尙ホ上ゲテモ宜イカ、上ゲル所ノ餘地アリヤ否ヤト云フコトヲ先づ伺ヒタイ、ドウシテモ上ゲルコトガ出来ナイナラバ、上ゲルコトノ出來ナイト云フ確タル決心ガナケレバナルマイ、又小麥粉ダケニ付テ、私共ハ消費者ノ立場カラ云ヒマスルナラバ、小麥粉ト云フモノハ世界中ノ國際的食物デ、我ガ日本ト云フ小サイ、食糧ノ少イ國デハ、元來米ノ食ツテ居ルト云フコトガ非常ニ一ツノ弱點デハナイカ、將來出來ルナラバ、此世界的ノ食物ニ日本ノ國民ト云フモノ慣ラスト云フコトガ非常ニ必要デニ於テモ必要デヤナイカト思フ、其原イ、國家生存ノ爲ニ於テモ、色ニナ問題ハナイカ、是ハ生キル爲バカリデハナスル、自給自足ハドウ云フ手段デヤル、斯ウ云フ明カナル決心、回答ヲ得ナケレバ、今日ノ生産者ト云ヒ、消費者モ承知ガ出来ナイコト思フ、ソコデ私ハ明カナル決心ヲ聞キタイト思フノデアリマス、例ヘバ小麥粉ニ例ヲ取ルノガ最モ好イ例デアリマスカラ、之ニ例ヲ取ツテ見マス、例ヘバ小麥粉ト云フモノハ今日一圓八十五錢ノ税率ニナッテ居ル、政府ハ一圓八十五錢ノ關稅ヲ尙ホ上ゲテモ宜イカ、上ゲル所ノ餘地アリヤ否ヤト云フコトヲ先づ伺ヒタイ、ドウシテモ上ゲルコトガ出来ナイナラバ、上ゲルコトノ出來ナイト云フ確タル決心ガナケレバナルマイ、又小麥粉ダケニ付テ、私共ハ消費者ノ立場カラ云ヒマスルナラバ、小麥粉ト云フモノハ世界中ノ國際的食物デ、我ガ日本ト云フ小サイ、食糧ノ少イ國デハ、元來米ノ食ツテ居ルト云フコトガ非常ニ一ツノ弱點デハナイカ、將來出來ルナラバ、此世界的ノ食物ニ日本ノ國民ト云フモノ慣ラスト云フコトガ非常ニ必要デニ於テモ必要デヤナイカト思フ、其原イ、國家生存ノ爲ニ於テモ、色ニナ問題ハナイカ、是ハ生キル爲バカリデハナスル、自給自足ハドウ云フ手段デヤル、斯ウ云フ明カナル決心、回答ヲ得ナケレバ、今日ノ生産者ト云ヒ、消費者モ承

本デハ食糧ガ足リナイ、足リナイト云
フノハ米バカリヲ食ツテ居ル、ケレドモ
米ハ或ル所カラ——東洋アタリカラ來
マス、是カラ取ルヨリ外ニ仕方ガナイ、
食糧問題解決ノ爲ニハ、米ヲ得ルコト
ト、小麥粉ヲ得ルコトニ於テハ、小麥粉
ヲ得ルト云フコトノ方ガ、原料ヲ得ル
ト云フ方ニ於テモ非常ニ容易デアル
シ、又之ヲシナケレバ、例ヘバ軍事上ノ
ヤウナトキニ、三度々々飯ヲ炊イテ食
フト云フコトデハ能率ガ舉ラナイ、一
方ニ於テ麵匏ノヤウナモノヲ拵ヘルト
云フコトハ能率ヲ舉ゲルコトデアル、
私共桐生地方デ、僅カノ人ヲ使ツテ居ル、
工場デ何トカシテ一食飯ヲ炊イテ食
ハナイヤウニシタナラバ、ドレダケ生
産能率ガ舉ガルカト云フヤウナコトニ
付テ餘程研究シタコトガアリマスガ、
是ハ國ノ經済能率ヲ上ゲルニ付テハ、
米食ヨリハ此小麥ヲ使ツテスルト云フ
コトガ餘程能率ヲ舉ゲルト云フコトニ
付テモ、前途考ヘナケレバナラヌコト
デアラウト思フ、旁ニ此小麥粉ト云フ
ヤウナモノハ、日本ノ食糧品トシテ最
モ必要ナモノデアルカラ保護シナケレ
バナラヌト思フ、今農會ノ宣傳スル如
ク、私ハ小麥粉ヲ保護スルガ爲ニ、日本
ノ農產物ヲ保護セヌデモ宜イト云フ議
論デヤナイ、農產物ト云フモノハ、例ヘ
ト云フモノハ假令自給自足ガ出來ナク

トモ是ハ或ル程度マデ保護シナケレバ
ニ付テハ、成ベク安クシナケレバナラ
ヌ、是ハ今言フ通り、國民ノ食糧問題カ
ラシテ、此小麥ヲ食フ所ノ者ハドウ云
フ階級ノ人デアルカ、日本デ食フ所ノ
モノハ麵麪トカ餡飪ノヤウナモノデア
ル、ケレドモ其餡飪ト云フヤウナモノ
ヲ實際ニ於テ多ク食フ所ノ者ハ下層階
級デアル、下層階級ノ多ク食フ所ノ食
物デアリマスカラ、社會政策上、ドウシ
テモ是ハ安クシナケレバナラヌト云フ
コトハ疑ナイコトデアル、此恩澤ヲ受
ケル者ハ、單リ消費者ト申シマシテモ、
農業者以外ノ消費者バカリデナクシ
テ、農業家モ其影響ヲ受ケル、此小麥ト云
云フモノハ今日ヨリモ之ヲ上ゲルト云
フコトノ政策ハ、國家ノ爲ニ断ジテ出
來ルモノデヤナイト思フ、寧ロ下ゲル
トテモ之ヲ上ゲルト云フヤウナコト
ハ、断ジテ今日國家ノ食糧問題ノ解決
ノ上カラ、又社會政策ノ上カラシテ上
ゲルコトハ出來ナイト私ハ感ジテ居
ル、此決心ガ政府ニ於テアリヤ否ヤ、之
ヲ第一ニ聞キタクナイ、仕方ガナイカラ合
ノ小麥モタント上ゲタクナイ、コツチノ
方モ上ゲタクナイ、仕方ガナイカラ合
ノ子ヲ取ッテ現在ノ儘ニ置クト云フヤ
ウナ、曖昧ナコトデハ今日ノ消費者ト
生産者トハ納得シナイト思フ、故ニ小
麥粉ハ少クトモ是ヨリ上ゲルト云フコ

トハ断ジテ出来ナイト云フ決心ガアリ
ヤ否ヤヲ聞キタイト思フノデアリマ
ス、運動ノ強イ方ニ向ッテ、ドッヂニデモ
スルト云フヤウナ考デハイカヌト思
フ、此決心ヲ聞キタイト思フ、又小麥ノ
方カラ申シマスナラバ、小麥ト云フヨ
ノハ今言フ通り日本デ五十萬町歩ア
ル、日本ノ穀物カラ云フト重要ナ穀物
デアル、殊ニ是ハ原料ニナルヤウナ穀
物デアル、是ハ現在ノ儘デ五百萬石出
來ルト云ヒマスカラ、必要ナモノデア
ル、ケレドモ是ハ今日ノ儘ニスルナラ
バ或ハ段々世界的ノ脅威ヲ受ケテ減ッ
テシマフデアラウ、是ハ世界的ノモノ
デ其儘ニスルナラバ減ルカラ、ドウシ
テモ保護シナケレバナルマイ、少クト
モ日本ノ食糧品ト云フモノハ、政治上
ノ立場カラ損デモ保護シナケレバナラ
ヌト云フコトハ、今日議論ノ無イコト
デアル、況ヤ日本デ出來ルダケノモノ
ハドウシテモ保護シナケレバナラヌ、
其保護ハソレナラバ關稅ヲ高クスレバ
保護ガ出來ルト云フ議論ガアリマスケ
レドモ、果シテ關稅ヲ高クサヘルナ
ラバ、自給自足ガ出來ル程度ニ行クト
云フ決心ガアルカ、若シ關稅ヲ高クス
レバ自給自足ガ出來ルト云フナラバ、
國民ハ暫クノ間——幾年ノ間ニ見込ガ
立ツト云フナラバ、消費者ノ方ハ國ノ
爲ニ高イ粉ヲ食ッテモ暫クノ間我慢ス
ル、關稅ヲ高クスレバ出來ル、何年經
タナラバ出來ルト云フ見込ガアレバ、

其見込ヲ御明示ヲ願フナラバ消費者ハ
我慢スルカモ知レヌ、唯其案ガ無クシ
ス、一方ニ於テ關稅デサウモ高ク出來ナ
ル譯デアリマス、飯塚君ノ今ノ御議論
ハ、大局カラ見テ洵ニ御互ニ研究スペ
ル見込ガアルナラバ御明答ヲ願ヒ
タイ、若シ出來ナイト云フナラバ此
儘自然ニ任セテ置クカ、或ハドウシ
テ保護ヲスルカト云フニツノ點ヲ伺
上ゲナケレバナラスガ、今日社會政
策上カラ小麥粉ノ關稅ヲ是ヨリ上ゲ
ルコトハ出來ナイ、ソレナラバ後ハ
ドウシテ保護スルト云フ案ヲ生產者
ニ示スニアラザレバ、農民ノ大會ト云
トハ出來ナイ、政府ハ此食糧ノ點ニ付
テノ決心ヲ御示シ下サルコトヲ希望ス
ル、彼方モ上ゲタクナイ、此方モ上ゲタ
クナイ、双方カラ引張ラレルカラ現狀
ノ儘ニスルト云フヤウナ曖昧ナ態度デ
ハ、生產者モ消費者モ我慢ハ出來ナイ、
サウ云フ曖昧ナコトデアルト、農民黨
ノ儘ニスルト云フヤウナ曖昧ナ態度デ
アリマスガ、右申上ゲマシタヤウナモ
ノハ、何レモ農家ノ主要ナル生産物デ
モアリマス、ソコデ只今ノ御尋ノ點デ
ニナッテ居リマス、ソコデ低減シタモノ
アリマスガ、右申上ゲマシタヤウナモ
テ、國內生産ヲ以テ需要ヲ満スコトガ
困難ナリト認メラレルモノ、及ビ國內
供給ヲ爲シ得ベキモ、關稅ヲ以テ其目

○小山政府委員 只今御尋ノ點ハ曩ニ
國務大臣カラ大體ノ方針ヲ申上グテア
イカラ、先づ此程度デ行クナドト云フ
コトデハ、生產者ハドウシテ我慢ガ出
來ルカ、ソレ等モ關稅ダケデ出來ナイ
ナラ出來ナイ、出來ルナラ出來ルト云
フ見込ガアルナラバ御明答ヲ願ヒ
タイ、若シ出來ナイト云フナラバ此
儘自然ニ任セテ置クカ、或ハドウシ
テ保護ヲスルカト云フニツノ點ヲ伺
上ゲナケレバナラスガ、今日社會政
策上カラ小麥粉ノ關稅ヲ是ヨリ上ゲ
ルコトハ出來ナイ、ソレナラバ後ハ
ドウシテ保護スルト云フ案ヲ生產者
ニ示スニアラザレバ、農民ノ大會ト云
トハ出來ナイ、政府ハ此食糧ノ點ニ付
テノ決心ヲ御示シ下サルコトヲ希望ス
ル、彼方モ上ゲタクナイ、此方モ上ゲタ
クナイ、双方カラ引張ラレルカラ現狀
ノ儘ニスルト云フヤウナ曖昧ナ態度デ
ハ、生產者モ消費者モ我慢ハ出來ナイ、
サウ云フ曖昧ナコトデアルト、農民黨
ノ儘ニスルト云フヤウナ曖昧ナ態度デ
アリマスガ、右申上ゲマシタヤウナモ
ノハ、何レモ農家ノ主要ナル生産物デ
モアリマス、ソコデ只今ノ御尋ノ點デ
ニナッテ居リマス、ソコデ低減シタモノ
アリマスガ、右申上ゲマシタヤウナモ
テ、國內生産ヲ以テ需要ヲ満スコトガ
困難ナリト認メラレルモノ、及ビ國內
供給ヲ爲シ得ベキモ、關稅ヲ以テ其目

ラ御明答ヲ願ヒマス
○小山政府委員 只今御尋ノ點ハ曩ニ
國務大臣カラ大體ノ方針ヲ申上グテア
イカラ、先づ此程度デ行クナドト云フ
コトデハ、生產者ハドウシテ我慢ガ出
來ルカ、ソレ等モ關稅ダケデ出來ナイ
ナラ出來ナイ、出來ルナラ出來ルト云
フ見込ガアルナラバ御明答ヲ願ヒ
タイ、若シ出來ナイト云フナラバ此
儘自然ニ任セテ置クカ、或ハドウシ
テ保護ヲスルカト云フニツノ點ヲ伺
上ゲナケレバナラスガ、今日社會政
策上カラ小麥粉ノ關稅ヲ是ヨリ上ゲ
ルコトハ出來ナイ、ソレナラバ後ハ
ドウシテ保護スルト云フ案ヲ生產者
ニ示スニアラザレバ、農民ノ大會ト云
トハ出來ナイ、政府ハ此食糧ノ點ニ付
テノ決心ヲ御示シ下サルコトヲ希望ス
ル、彼方モ上ゲタクナイ、此方モ上ゲタ
クナイ、双方カラ引張ラレルカラ現狀
ノ儘ニスルト云フヤウナ曖昧ナ態度デ
ハ、生產者モ消費者モ我慢ハ出來ナイ、
サウ云フ曖昧ナコトデアルト、農民黨
ノ儘ニスルト云フヤウナ曖昧ナ態度デ
アリマスガ、右申上ゲマシタヤウナモ
ノハ、何レモ農家ノ主要ナル生産物デ
モアリマス、ソコデ只今ノ御尋ノ點デ
ニナッテ居リマス、ソコデ低減シタモノ
アリマスガ、右申上ゲマシタヤウナモ
テ、國內生産ヲ以テ需要ヲ満スコトガ
困難ナリト認メラレルモノ、及ビ國內
供給ヲ爲シ得ベキモ、關稅ヲ以テ其目

○小山政府委員 只今御尋ノ點ハ曩ニ
國務大臣カラ大體ノ方針ヲ申上グテア
イカラ、先づ此程度デ行クナドト云フ
コトデハ、生產者ハドウシテ我慢ガ出
來ルカ、ソレ等モ關稅ダケデ出來ナイ
ナラ出來ナイ、出來ルナラ出來ルト云
フ見込ガアルナラバ御明答ヲ願ヒ
タイ、若シ出來ナイト云フナラバ此
儘自然ニ任セテ置クカ、或ハドウシ
テ保護ヲスルカト云フニツノ點ヲ伺
上ゲナケレバナラスガ、今日社會政
策上カラ小麥粉ノ關稅ヲ是ヨリ上ゲ
ルコトハ出來ナイ、ソレナラバ後ハ
ドウシテ保護スルト云フ案ヲ生產者
ニ示スニアラザレバ、農民ノ大會ト云
トハ出來ナイ、政府ハ此食糧ノ點ニ付
テノ決心ヲ御示シ下サルコトヲ希望ス
ル、彼方モ上ゲタクナイ、此方モ上ゲタ
クナイ、双方カラ引張ラレルカラ現狀
ノ儘ニスルト云フヤウナ曖昧ナ態度デ
ハ、生產者モ消費者モ我慢ハ出來ナイ、
サウ云フ曖昧ナコトデアルト、農民黨
ノ儘ニスルト云フヤウナ曖昧ナ態度デ
アリマスガ、右申上ゲマシタヤウナモ
ノハ、何レモ農家ノ主要ナル生産物デ
モアリマス、ソコデ只今ノ御尋ノ點デ
ニナッテ居リマス、ソコデ低減シタモノ
アリマスガ、右申上ゲマシタヤウナモ
テ、國內生産ヲ以テ需要ヲ満スコトガ
困難ナリト認メラレルモノ、及ビ國內
供給ヲ爲シ得ベキモ、關稅ヲ以テ其目

ノデアリマス、要ハ繰返シテ屢申上ゲ
マシタ通リ生産保護、生活安定、此二ツ
ノ調和ヲ以テ現改正案ニ對シテハ之ヲ
安當ト認メルト云フ譯デ、御審議ヲ煩
シテ居ル次第デアリマス
○飯塚委員 御話ノ所ハ能ク分ッテ居
リマシテ、調和ヲ取ルト云フコトハ寔
ニ平和的デアリマスガ、尙ホ進ンデ今
日現在行フ所ノ決心ノ程モ、今日御話
ニ依テ稍分リマシタガ、左様ナラバ小
麥粉ハ社會政策上消費者ノ立場ニ於テ
是ヨリ上グルコトハ出來ナイ、是ヨリ
上グルコトハ出來ナイト云フ御決心デ
アルト、一方カラ解釋シテ宜カラウト
思フ、而シテ小麦ノ方ハ七十七錢トス
ルノハ、是デ詰リ小麦ノ生産ガ保護出
來ルト言ハレルコトデアルカ、或ハ是
デハ保護ガ足リナイ、保護ガ足リナイ
ケレドモ、小麦ノ爲ニ保護ガ足リナイ
ト云フコトハ政府ガチヤント認メテ居
ル、關稅デハ七十七錢デ保護スルガ、是
デハマダ保護ガ足リナイ、故ニ其他ノ
事デ保護スル積リデアルト云フコトヲ
明ニ御言下サレバ、茲ニ消費者ト生
産者ト云フモノガ安堵スルデアラウト
思フガ、唯調和ヲ圖ルト云フヤウナ曖
昧ナコトデ強イ方ニ使ハレルヤウデア
リマシタナラバ、一向御見識ガナイコ
トニナルト思フ、故ニ政府ノ言ハレル
作付段別ヲドウスルトカ、種ヲ改良ス

ルトカ云フノモ一ツノ保護デアラウト
思フ、私ハ斯ウ解釋シテ差支ナイト思
ヒマス、即チ小麦粉ハ一圓八十五錢ヨ
リ上グルコトハ出來ナイ、之ヲ以テ十
分ナル保護トシ、マダモット下ゲタイ考
モアルガ、今ノ所ハ是ヨリ仕方ガナイ
云フ御決心、一方ハ七十七錢ヨリ上グル
コトハ出來ナイ——小麦ノ爲ニハ七
十七錢ヨリ上グルコトハ出來ナイ、併
ナガラソレデハ保護ハ十分デナイ、故
ニ其他ノ方法ニ於テ出來ルダケ生産者
ト云フモノヲ保護ラスル積リデアル、
アリマセヌカ、尙ホ其點ノ御考ヲ御說
明ヲ願ヒマス

○小山政府委員 繰返シテハ申上グマ
セヌ、只今申上ゲマシタヤウナ方針デ
此改正法律案ヲ提出致シタ譯デアリマ
スガ、更ニ積極的ニ申上ゲマスルノハ、
前日モ屢申上ゲマシタガ、日本ノ小
麥ノ栽培ニ付テハ尙ホ一段努力ヲ要ス
度豫算ニ於テモ御審議ヲ願ッテ居ルヤ
ウナ譯デ、何分ニモ遺憾ナガラ我國ノ
小麥ノ現在ノ品質カラ參リマスト、輸
入致シ物ニ劣ッテ居リマス、之ヲ若シ輸
入物ニマデ生産ノ成績ヲ舉ゲテ參リマ
スレバ、私ハ先日モ申上ゲマシタ我國ノ
小麥ノ栽培ハ、作付ノ方面ニ於テ尙
ホ意ヲ強ウスルニ足ルデアラウ、チヨ

ツト茲デ御参考ニ……
○飯塚委員 ソレハ宜シウゴザイマス
○小山政府委員 宜シケレバ申上グマ
製粉ノ上カラ申シマシテ、其品質ハ輸
入シテ參リマス所ノ小麦ト餘リ差額ナ
キマデ進歩致シテ居リマス、若シ埼玉
縣ノ品質ノ改良、アノ栽培ノ方法ガ全國
生産業者ニ於テ之ヲ採ッテ則トシテ以
テ協力シテ參ルト云フヤウナコトニナ
リマスレバ、私ハ飯塚君ノ御心配ニナ
ス様ナ御意見デアルト認メマシテ差支
ト云フモノヲ保護ラスル積リデアル、
アリマセヌカ、尙ホ其點ノ御考ヲ御說
明ヲ願ヒマス

○小山政府委員 繰返シテハ申上グマ
セヌ、只今申上ゲマシタヤウナ方針デ
此改正法律案ヲ提出致シタ譯デアリマ
スガ、更ニ積極的ニ申上ゲマスルノハ、
前日モ屢申上ゲマシタガ、日本ノ小
麥ノ栽培ニ付テハ尙ホ一段努力ヲ要ス
度豫算ニ於テモ御審議ヲ願ッテ居ルヤ
ウナ譯デ、何分ニモ遺憾ナガラ我國ノ
小麥ノ現在ノ品質カラ參リマスト、輸
入物ニマデ生産ノ成績ヲ舉ゲテ參リマ
スレバ、私ハ先日モ申上ゲマシタ我國ノ
小麥ノ栽培ハ、作付ノ方面ニ於テ尙
ホ意ヲ強ウスルニ足ルデアラウ、チヨ

○加藤委員長 ソレデハ是レデ休ミマ
シテ、午後引續イテ午後一時カラ開キ
マス

○加藤委員長 飯塚君ハマダ質問アリ
マスカ、アレバ午後ニシタイト思ヒマ
ス

○飯塚委員 マダアリマス

○加藤委員長 ソレデハ是レデ休ミマ
シテ、午後引續イテ午後一時カラ開キ
マス

午後零時二分休憩

致スノデアリマス、先刻申スヤウニ小
麦粉ト云フ國際的ノ食物ハ、是ハ實ニ食
糧品トシテハ世界ニ豊富ナル食糧品デ
アリマスカラ、此豊富ナル食糧品ヲ是
非日本國民ノ食糧品トスルヤウニシナ
ケレバナラナイ、是ガ一ツノ國策デア
リマス、其國策ニ順應スルニハ、小麥ハ
成ベク安ク安全ニ得ナケレバナラヌ、
是ガ今日ノ問題ト思ヒマス、其見地力
ヲ云ッテ小麥粉ノ關稅ヲ一圓八十五
錢ニ今日迄シテ置クト云フコトハ、色
色歴史ガアリマスカラ、之ヲ上げ下ゲ
スルト云フコトハ——一圓八十五錢ト
云フ關稅ヲ維持スルコトガ適當ダト思
ヒマス、此一圓八十五錢ニ於テ餽餉ト
カ、麵匏トカ、或ハ醬油トカ、味噌トカ
云フヤウナ物ノ價格ガ割出サレナケレ
バナラヌカラ、之ヲ上ゲルトナルト物
價ガ上リ生活費ガ上ルト云フコトニナ
ルカラ、之ヲ成ベク下ゲタイト思ヒマ
スガ、下ゲルコトガ出來ナケレバ之ヲ
何所マデモ維持シナケレバナラヌ、是
ガ小麥粉ニ付テノ考ダト思ヒマス、故
ニ小麥粉ニ付テハ、政府ハ次第ニ依テ
ハ維持スルト云フ御決心カ、ソレヲ發
表ヲ願ヒタイ、聲明ヲ願ヒタイ、ソレデ
始メテ消費者ガ安堵スルノデアリマ
ス、其次ニ又小麥デス、假ニ小麥ト云フ
モノハドウカト云フト、是ハ小麥ト云
フモノハ主要ナル農產品デアリマスカ

ラ、世界ノ他ノ生産地ニ比シテ日本ハ
不利ナ地ニ在ツテ、非常ニ生産費ガ高ク
シテ、生産費ヲ償フニ足リヌト農業者
ガ唱ヘテ居リマス、或ハ然ラン、私ハ之
ニ就テハ能ク分リマセヌ、併ナガラ若
シモ之ヲ保護シテ自給自足ガ出來ルヤ
ウナコトデアルナラバ、是ハ是非共保
護シテ自給自足ノ域ニ達スルコトヲ私
ハ希望スル、併ナガラ其保護スルト云
フコトハ何ニ依テ保護スルカ、關稅ニ
依テ保護スルト云ヘバ、關稅ト云フモ
ノハ少クモ、小麥粉ニ關係スルコトハ
關稅ヲ以テ之ヲ保護スルト云フコトハ
出來ナカラウト思フ、併ナガラ政府ガ
關稅ニ於テ尙ホ餘裕アリトスルナラ
バ、ドレダケ上ゲル積リデアルカ、例ヘ
バ製粉業者ト云フモノヲ脅威セズシ
テ、製粉ト云フモノノ關稅ヲ上ゲナク
テ——製粉業者ト云フモノハ非常ニ儲
ケガアル、例ヘバ七十五錢ノ保護ガア
レバ七十錢デ宜イ、或ハ六十錢デ宜
イ、小麥ト云フ物ノ關稅ヲ上ゲテ、サウ
シテ尙ホ日本ノ製粉業ト云フモノハ力
ガアルカラ上ゲルト云フ御考デアルナ
ラバ、私ハソレニ賛成スル、若シ製粉業
ト云フモノガ、七十五錢ノ保護ヲ以テ
今日ハヤツテ居ルコトデアルカラ、是ヨ
リ製粉業者ト云フモノヲ窘メルコトハ
出來ナイト云フコトデアルナラバ、ド
ト云フ關稅デ保護ハ出來ナイト云フコ
トヲ是亦聲明致サナケレバナラナイト

思フ、ソレナラバ小麥生産業者ガ七十
七錢デハ到底自給自足ト云フコトハ何
時マデモ出來ナイノミナラズ、何トカ
保護シナケレバ段々減退スル有様デア
ルガ、之ヲ如何ニスルカト云フコトニ
ナレバ日本ノ政策トシテ、少クモ小麥
ナラ小麥ニ付テ——之ヲ現狀ノ儘ニ放
任シテ置ケハ減退スルカモ知レナイ
——或ハ現狀ヲ維持スルノミナラズ、
益此増殖ヲ圖ラナケレバナラヌト云フ
ナラバ、關稅以外ノ他ノ方法ニ依テ之ヲ
保護シテ、少クモ農業者ノ生產費ヲ償
フニ足ルダケマデハ何所マデモ保護ス
ル決心デアルト云フコトヲ私ハ御明言
ヲ聽ケバ満足致シマス、或ハソレヲ種
子ノ改良ニ依ルトカ、或ハ用排水ニ依
ルトカ、或ハ其他保護金ヲ吳レルトカ、
色ニナコトハ別問題トシテ——ソレヲ
私ハ今日聽ク必要ハナイ、唯四圍ノ狀
況ガ、生産者ノ聯合會ヲ造ツテ、農民大
會ト云フヤウナ聯合會ヲ造ツテ、之ヲ關
稅ノミニ依テ生産費ヲ上ゲヤウト云フ
空氣ガアリマスカラ、此空氣ニ左右サ
レマシテハ、日本ノ社會政策ハ、之ヲ消
費スル所ノ多クノ者ガ一大脅威ヲ感ズ
ルコトデアリマスカラ、其脅威ヲ除ク
ニハ、政府ガ茲ニ於テソレダケノ言明
ヲ致サレルコトガ非常ニ私ハ必要ダト
思ヒマス、デ是ハ現在此消費者ノ立場
ニ於テ、現在ノ關稅ト云フモノハ、少ク
モ小麥粉ニ付テハ適當ト見テ居リマ
ス、是ヨリ上ゲルト云フコトハ、小麥ノ

關稅ヲ上ゲテ同時ニ又小麥粉ヲ上グルト云フコトニナリマシタナラバ、日本ノ製粉業ト云フモノハ脅威ヲ受ケテ、却テ是ハ農民ノ害ニナリハシナイカ、作ツテモ自分デ作ッタ所ノ小麥ヲ、自分で手引ノ餌鈍ニスルトカ、或ハ味噌ニスルト云フコトハ出來テモ、製粉業ト云フコトガ出來ナイカラ、却テ下ルト云フコトガアツテ、却テ農民ノ害ニナリハシナイカト云フヤウナ憂モアリマスカラ、此場合政府ハ大ナル決心ヲ以テ聲明セラレンコトヲ私ハ希望致シマスガ、ソレニ付テ如何ニ御考デアリマスカ

招クト云フヤウナコトガアリマスレバ、是ハ又由々敷社會問題ヲ起スト云
得失ノ點ヲ深ク考ヘマシテ、相當ニ研究シテ、此程度ヲ以テ妥當ト認メマシ
タヤウナ譯デアリマス、製粉業ノコトニ付キマシテハ、先ニ申上ゲマシタヤ
ウニ、近時我ガ製粉業モ段々發達シテ參リマシテ、相當ノ成績ヲ擧ゲテ居ル
ヤウナ譯デアリマス、繰返シテ申スヤウデアリマスガ、何ヲ申シマシテモ、今
ノ麥ノ粒其物ガ外國ヨリ這入ッテ參リマス物ト比較シテ、製粉事業ノ歩止リ
ガ劣ッテ居ル、此歩止リガ這入ッテ來ル物ト殆ド同一ニ參ルト云フコトデアリ
マスルナラバ、大ニ其原料ノ關係ニ於キマシテモ、尙ホ一段吾ニ意ヲ強ウス
ルニ足ルノデアル、問題ハ麥ノ粒及粉ニ於キマシテモ、先日來屢申上ゲマス
ヤウナ所ニ其方針ヲ置イテ居ルノデアリマシテ、歸スル所ハ生産消費ノ兩方面ノ調和宜シキヲ得テ、以テ我國ノ食糧問題ト社會問題ト相俟テ、將來ノ施設ヲ全ウシタイ、斯ウ考ヘテ居ル譯デアリマス

策ノ上デイカヌカラ、是ヨリ上ゲナイト云フモト云フコトヲ御聲明爲サツタ方ガ宜クハナイカ、調和ヲ圖ッタ云フコトデアルガ、製粉業ハ一圓八十五錢ト云フモノガ適當ナルモノトシテ之ヲ維持スルト、斯ウ御言明ヲ願ヘレバ私モ安心スル、私モ安心スルト云フヨリモ此小麥消費者ガ安心スル譯デアリマス、ソレナラバ小麥ト云フモノハ七十七錢デ十分保護ガ出來ル、相當ナ發達ガ出來ルト云フ見込デアルカト云ヘバ、恐ラク政府デモ七十七錢デハ小麥ノ生產ヲ十分ニ保護出來ナイト考ヘテ居ルダラウト思フ、若シソレナラバ小麥ト云フモノハ種子ヲ改良スルトカ、耕作法ヲ改良スルト云フ考ガアルニシテモ、七十七錢デ十分ニ自發的ニ發達サスルコトハ出來ナイカラ、其他ノ施設デ小麥ヲ保護スルダラウト思フ、故ニ關稅ニ於テハ製粉——關係モアルニ依リ、七十七錢デハ、小麥ノ產業ト云フモノガ十分ニ保護出來ナイ故ニ、其他ノ施設ニ依テ小麥ノ產業ヲ保護スル積リデアル、斯ウ云フ風ノ御辯明ヲ得タイノデアル、得タイノミナラズ、サウ云フ御辯明ガアレバ、農民大會、農會ノ聯合會ナドモ安心スルダラウト思フ、農業者ハ自分ケレドモ、其他ノ方法ニ依テ、例ヘバ米ハ生産者デアリ、又消費者デアルカラ、生産ニ於テハ七十七錢デハ十分デナイノ調節法ト云フヤウナモノデ保護サレル、少クトモ生産費マデハ保護スル所

ノ施設ヲヤツテ吳レルモノト安心スレバ、消費者モ生産者モ安心スルダラウト思フ、推測スル所、恐ラク政府モ其御ルト見テ是デ質問ハ止ヌマスガ、御異議ガアレバ御辯明ヲ願ヒマス

○小山政府委員 今ノ農業生産ヲ、關稅ヲ以テ保護スルト云フコトガ方針デアルト致シマスナラバ、現在ノ農業生産物ニ非常ニ高率ナモノヲ掛ケナケレバナラヌ事ニナリマセウト思ヒマス、若シサウナリマスト、一方消費者階級ニ一大不安ヲ興ヘルト云フ譯デアリマスカラ、先日來屢申上グマシタガ、積極的ニ施設ヲシテ、サウシテ其調和ヲ圖ツテ居ル、其方針ニ基イテ更ニ其增收ヲ圖リ、以テ生産消費ノ其間ノ調和宣シキヲ得ルト云フコトニ致シテ居ルト云フコトヲ申上ゲタ、是ハ屢繰返シテモ同一ナ事ヲ申上グルノテアリマスカラ、ドウゾ其邊デ……

○奥村委員 私ノ御尋セントスルノハ、稅番二十二ノ第四項ニアリマス所ノ「タビオカ」「マニオカ」及「セーゴ」之ニ就テ御尋致シタイト思フノデアリマス、現在ノ所ハ「タビオカ」「マニオカ」每百斤ニ付一圓五錢ノ稅率デアリマス、「セーゴ」ハ每百斤ニ付二圓ノ割合ニナツテ居ル、是ヲ今回ノ改正表ニ依リマスト一圓ニナツテ居ル、御下ゲニナツテ居ルコトハ至極結構デアリマス、又其用途ハ工業方面デアリマスノデ至

シテハ現行法ハ一圓六十五錢デアルノ
ソレヲ分ケテ甲乙ト爲シ、サウシテ二
十二ノ五ノ「コーンスター」、之ニ對
シテハ現行法ハ一圓六十五錢デアルノ
ヲ、四圓五十五錢ニ引上ニナツテ居ル、
此「コーンスター」ト云フモノハ、何
ニ使用サレテ居ルカト云フコトヲ
當局者ハ如何ニ御覽ニナツテ居ルカ、其
邊ヲ一應承リタイ

見マシテ稍——食用ト申シテモ生活ノ必需品デナク嗜好品ニ屬スルノデアリマスカラ、稍上ゲテモ宜カラウ、ソレ一つハ生産ガ出來掛ツテ居ルカラ、此位ガ適當ト信ジタノデアリマス

○奥村委員 只今當局ノ説明ニ依リマ
スト、「コーンスターク」ヲ食用ノ爲ニ

使ハレルト云フヤウニ承リマシタガ、當業者ノ吾ニ所ニ陳情シタ所ニ依ルト——或ハ吾ニガ紡績會社、特ニ日本紡績ニ於テ調べタ點ニ依ルト、其他種種ノ統計ニ依テモ、今當局ノ言ハレル輸入ノ八割五分ハ、此纖維工業ノ方ニ食用ト云フヨリハ、日本ニ八十萬圓ノ使ハレテ居ル、サウシテ彼ノ「タビオカ」「セーヴゴ」ナドガ企及シ得ナイ所ノ「コーンスター」ハ特色ヲ持テ居ル、隨テ速モ今回ノ如キ一圓六十五錢ノモノヲ、四圓五十五錢ニ上ゲテ貰フト云フコトハ甚ダ困ルト、當業者ガ言ウテ居ルノデアリマス、ソレ故ニ私ハ先ニ御尋シタハ、如何ナル方面ニ使用サレラ居ルカト云フコトデアツテ當局ハ非常ナ見當違ヒノ答辯ヲサレテ居ルガ、是ハ事實御調ベヲ願ヒタイト思ヒマス、私ハ其次ニ移リマシテ、稅番二十三ノ胡麻子、是ハ胡麻油ヲ製造スルノデアリマスガ、現行率一圓トアルノヲ五十錢ニ下ゲタ、併シ是ハ下ゲタノハ至極結構デアリマスガ、併ナガラ二十五ノ菓子及芥子、是等トハ餘程違ッテ殊ニ

胡麻子カラ得タ所ノ胡麻油ノ用途ト云
フモノハ、今政府委員ガ言ハレタ如ク、
食料ノ中デモ嗜好ニ屬スル方ニ私ハ近
イト思フ位アリマス、然ルニ之ヲ半
額ニシタ、所ガ二十五ノ菓子及芥子ニ
付キマシテハ、在來ハ六十五錢デアッタ

ノヲ今回八十五錢ニ改正セントシテ居
ル、此在來六十五錢ノ率モ油四十錢、粕
二十五錢ノ戻稅ガ行ハレテ居リマスガ、
是ハ當業者及本員ノ調ベタ所ニ依
リマスト、菜子百ニ對シテ六十「バーセ
ント」ハ粕デアル、サウシテ油ハ三十
一、不純物ガ九ト云フコトノ計算ニ相
成ツテ居ル、然ル所價格ノ上カラ云ツテ
モ、粕ノ方ガ高イノデアリマス、然ルニ
其粕ニ對シテ二十五錢、油ノ方ニ對シ
テ四十錢ノ戻稅ガアリマスガ、當局ハ
之ヲ今回八十五錢ニ引上ケントシテ居
ラレルガ、之ヲ無稅トスルハ考ハナイ
カ、或ハ又無稅ガ出來ナイナラバ、現在
ノ戻稅ノ率ヲ正反對ニシテ、粕ニ多クナ
油ニ少クスル考ハナイカ、此粕ノ用途
ハ、大藏當局ハ御承知ノ通り、煙草ノ裁
培ニハ他ノ肥料ノ及バナイ特長ヲ持ツ
テ居ル等、色々ノ關係ガアリマスガ、當
局ハ今私ノ御尋シタニ點ニ對シテハ、
如何ナル御考ヲ持ツテオキデニナリマ
スカ

キマシテハ御話ノ通り、勿論紡績等ニ使ヒマスト云フコトハ承知致シマスガ、其外ニ「ブッディング」或ハ「バイ」或ハ西洋菓子ト云フモノニモ隨分使ハヌス、織物トシテ特ニ是ハ或種ノ物ニハ必要ナモノトハ考ヘテ居リマスガ

又食料トシテ用ヒラレルモノモ相當名居
イ、寧ロ大部分ハ食料トシテ用ヒラ
テ居ルモノデアルト云フ風ニ、實ハ考
ヘテ居ルノデアリマス、唯是ハ前ニエ
申シマシタ通り一般カラ申シマスト
以前明治四十一年頃デアリマシタカ
段々日本デ出來ルヤウニナツテ參ツテ
一時ハ相當生産ガアツタノデアリマス
ガ、安價ナ外國品ノ爲ニ非常ニ壓迫ヨ
サレマシテ、段々廢メルコトニナツテ
今ハ非常ニ窮境ニ在ルト云フ風ニ見ラ
レルノデアリマス、折角出來マスモノ
デアリマスカラ、是ハ多少ノ保護ハ致
シマシテ生産ヲ進メルト云フコトガ
國策トシテ必要デハナカラウカ、紡績
或ハ西洋洗濯ノ糊ニハ用ヒマスガ、ソ
レハ比較的其影響ハ少イモノデアラウ
ト云フ風ニ實ハ考ヘタ次第デアリマ
ス、ソレカラ次ニ此菜子及芥子デマリ
マスガ、是ハ胡麻子、荏胡麻子等ハ引上
ゲテ居ルニ拘ラズ、菜子及芥子ヲ引上
ゲテ居ラヌ、此菜子及芥子ニ付テハ内
地ニ於テハ相當菜種ノ生産ハアルノデ
アリマスガ、併シ近年段々減ツテ居ルセ
ウニモ見ラレマス、是等ニ對シテハ、内
地生産ノ狀況カラシテ、多少之ヲ引上

多
柏ニ對スル戻稅ハ、調査ヲシテ見ル。
却テ反對デアル、油粕ニ對スル戻稅
多クナクテハナラヌチャナイカト云
御意見デアリマスガ、是ハ今回稅率
變リマスレバ、自然戻稅致スニ付キ
シテハ率ヲ變ヘナケレバナラヌノデア
リマシテ、此際ニ尙ホ一應ソレ等ノ生
產ノ狀況ヲ、ドレダケノ歩合ニナリマ
スカ、十分ニ調査ヲ致シマシテ、率ヲ極
メタイト思ッテ居リマスガ、只今御述
ナリマシタコトハ十分參考ニ致シマシ
テ、研究致シテ見ル積リデアリマス
○奥村委員　只今ノ御説明ニ依リマス
ト、稅番二十二ノ「コーンスター」ニ
付キマシテ、見ル所ヲ異ニシテ居ルニ
ウデアリマス、又重テ當局ノ御注意ヨ
御願シタイ、モウ一應御調べ願ヒタイ
私モ調ベマス、是ハ後日ニ保留致シ
スガ、菜子及芥子ニ對スル戻稅ノ率ニ
付テハ、尙ホ考慮ヲシテ置クト云フ言
明ヲサレマシタノデ満足致シマス、僅
番二十五ノ菜子及芥子ニ對スル御見解
ト達ッテ、大豆ハ全部戻稅ニ相成ッテ
マスガ、是ハ今御答辯ニナリマシタ
ル、將來モ亦ナサルヤウデアリマスガ

○黒田政府委員 最初ニ御尋ニナリマ
シタ事ハ、後デ調ベテト云フ御話デア
リマシタガ、一應御答ヲ申シテ置キタ
イト思ヒマス、「コーンスター」ニ付

地ニ於テハ相當菜種ノ生産ハアルノアリマスガ、併シ近年段々減ツテ居ルヤニモ見ラレマス、是等ニ對シテハ、内地生産ノ狀況カラシテ、多少之ヲ引ト

マスガ、是ハ今御答辯ニナリマシタ
番二十五ノ菓子及芥子ニ對スル御見知
ト違ッテ、大豆ハ全部戻税ニ相成ッテ
ル、將來モ亦ナサルヤウデアリマスガ

マス、ソレニ對シテハ此「タビオカ」或バ「セーゴ」ト云フガ如キモノガ工業用トシテ使用セラルルト云フ理由デ、小作ノ副業ヲ顧ミル暇ガナ、斯様ニ御答辯ニナッタト了解シテ宜シイノデアリマスカ、而シテソレナラバ此點ハ工業用ノ使用ニ重キヲ置イテ、小作ノ副業ヲ顧ミナカッタト云フ、所謂保護政策ノ方ニハ全然觸レナカッタト云フノデアリマスカ、サウ云フヤウニ了解シテ宜シイノデアリマスカト云フコトデアリマス、今一ツハ此現ハシテ居ル中ニ葛ト同ジ性質ノモノ片栗、是ハ北海道ノ馬鈴薯澱粉デ排ヘルガ、其馬鈴薯澱粉デ排ヘル片栗ノ方ニ對シテハ、却テ一圓六十五錢ノモノガ二圓ニ引上ゲラレテ、其職業ガ却テ保護セラレテ居ルノハドウ云フ譯デアルカ、内地ノ葛ノ製造ニ對シテハ却テ其稅率ヲ下グテ壓迫ヲサレテ居ルノニ、北海道ノ方ノ馬鈴薯澱粉デ造ル片栗ニハ、其稅率ヲ上ダテ之ヲ保護シテ居ルト云フコトニナッテ居ルコトハ、不公平デハナイカト云フ訴デアリマス、而シテ此「ポテト」マセヌガ、是ハ其他ト云フ部類ニ入ッテ居ルノカト云フノデアリマス

○黒田政府委員 只今ノ御尋ハ馬鈴薯ヲ原料ト致シマシタ即チ片栗モ、甘諸矢張六ノ中ニ「其ノ他」ノ中ニ入ッテ居ル考ヘルノデアリマス、ソレカラソレニ類似シタル所ノ「セーゴ」等ガ安クナッテ居ル、其爲ニ内地ノ澱粉、是等ノ片栗、若クハ葛ト云フモノノ製造ガ非リマスカ、而シテソレナラバ此點ハ工業用ノ使用ニ重キヲ置イテ、小作ノ副業ヲ顧ミナカッタト云フ、所謂保護政策ノ方ニハ全然觸レナカッタト云フノデアリマスガ、是ハ「セーゴ」ニ付キアリマスモノハ現行通リ矢張三割ノ課税ヲ致シテ居ルノデアリマスカラ、此工業用ニ使ヒマスモノダケノ引上ゲデアリマスレバ、是等ノ澱粉ノ製造業ニ對シテ必シモ壓迫ヲ與ヘルモノデナイ、即チ單ニ工業用ニ用ヒラレルト云フ理由ノ下ニ内地ノ産業ハ構ハナイ、顧ミナカッタト云フ意味デハナイノデアリマス

○長田委員 此問題ハ其程度ニ止メテ置キマス、私ハ番號ノ第十二、米及穀ト云フ問題ニ對シテ少シク伺ッテ見タイト思ヒマス、是ハ總論ノ質問ノ場合ニ於テ既ニ盡サレテ居ルノデアリマスカラ、諄クハ申上ゲマセヌ、併シ明瞭ニシテ置キタイ點ガアリマスカラ御伺致スノデアリマス、米及穀、此關稅ヲ引上ゲルト云フ問題、若クハ此儘ニ置クト云フ問題ハ、現在特別法デアル米穀法ノ條文ノ中ニ、政府ハ必要ナ場合ニ於テハ關稅ノ増減又ハ免除ヲスルコトガ出るト云フコトニナッテ居ルノデアル原料ト致シマシタ葛ト云フモノモ、ノ大擴張ヲ企テラレルト云フコトニナリマシタナラバ、期年ナラズシテ一千萬石以上ノモノガ移入サレルト云フコスル殆ド價値ガナイト云フ風ニ見ラルノデアリマシテ、茲ニ稅額ヲ上ゲテ

吳レトカ、或ハ此儘ニ置カウト云フコトヲ、此法文ガアルガ爲ニヤカマシク常ニ壓迫ヲ受ケルデハナイカト云フ御話デアリマス、併ナガラ農業者ノ方ノ側マシテモ單ニ工業用ニ使ヒマスルダケテアリマス、併ナガラ農業者ノ方ノ側ヒマスルモノハ現行通リ矢張三割ノ課税ヲ致シテ居ルノデアリマスモノダケノ引上ゲデアリマスレバ、是等ノ澱粉ノ製造業ニ對シテ必シモ壓迫ヲ與ヘルモノデナイ、即チ單ニ工業用ニ用ヒラレルト云フ理由ノ下ニ内地ノ産業ハ構ハナイ、顧ミナカッタト云フ意味デハナイノデアリマス、ソレカラ今一ツハ此米ノアルベキ筈デアルト云フノデ、是非之ヲ動カシテ、今少シク増額ヲシテ貰ヒタイト云フ農村ノ要求ヲ持ッテ居ルノデアリマス、ソレカラ今一ツハ此米穀法ガアリマスレバ、增減ガ自由ニ出来ルノデアルカラ、サウ心配シナクテモ宜イデハナイカト云フ議論ガアリマスケレドモ、御承知ノ如ク米穀法ハ日本内地ノミニ施行セラレテ居ルノデアリシテ、植民地ニハ施行サレテ居ラナラシテ、殖民地ニハ施行サレテ居ラナシテモ、朝鮮米——内地ノ種子ニ依テヘテ朝鮮米デ内地米ト少シモ變ラヌモ安キ外米ヲ入レテ自己ノ日用生活ヲ支シヤウト云フ觀念ノ起ルノハ當然ノコトデアラウト思ヒマス、サウ致シマスノヲ產出シタノハ、ドン——内地へ移出シテモ、朝鮮米——内地ノ種子ニ依テヘテ朝鮮米デ内地米ト少シモ變ラヌモノヲ產出シタノハ、ドン——内地へ移出シヤウト云フ觀念ノ起ルノハ當然ノコトデアラウト思ヒマス、サウ致シマスルト、ドウシテモ朝鮮ノ内地ノ方ニガルト、ドウシテモ朝鮮ノ内地ノ方ニガルノデアル、ソレデ米穀法ハ朝鮮ニハ行ハレヌト云フコトニナリマスレバ、

度ニ研究致シテ居リマス、開墾助成ノ立法ノ精神モ鑑ミ又御協賛ヲ得テ居リマス、用排水幹線ノ過去及將來ノコトモ考ヘ、全國諸所ニ認メマス所ノ此用水排水ノ事業等ノコトモ調査致シテ、ソレハ、開墾干拓等、耕地政策ノコトニ付テ研究ハ致シテ居リマスガ、此食糧政策ノ中、只今御尋ノ麥ノ將來ノコトニ付テ折角今調査ヲ進メテ居リマス、併ナガラ何分ニモ麥ハ先日モ申上ゲマシタ通リ世界共通ノ食糧品デアリマシテ、其價格ノ變動如何ニ依テ其作付段別ノ増減スルト云フコトハ免レヌ状態ニ置カレテ居リマス、サリナガラ裏作デアリマシテ、此農家經濟ノ上カラ考ヘマシテモ、相當ニ之ニ對シテハ麥ノ將來ノコトニ付テハ折角今調査ヲ致シテ居リマス、栽培面積ヲ尙ホ多ク增加スルコトガ出來ルト云フコトニ付テ大體ノ方針ハ持ツテ居リマスガ、併ナガラ計算ノ場合ニ於テ當局者ノ斷案ヲ申スマデノ程度ノ調査ハ只今ハ持ツテ居リマセヌ、併シ二十年、三十年ノ將來ノ麥ノ自給自足ガ出來ルカドウカト云フコトニ付キマシテハ、是ハ今出來ルトモ出來ナイトモ申上ゲ兼ネマスガ、併シ大體世界全體ガ麥ノ問題ニ付テハ、年ヲ重ネテ一ツノ惱ミヲ持ツテ居リマス、所謂麵麿ヲ常食ト致ス所ノ白人種アタリガ生活ノ脅威ヲ年々受ケルヤウナ状態デアリマシテ、先刻來一寸

申上ゲマシタガ、元麥ノ產地デアリ
マシタ亞米利加ニ致セ、露西亞ニ致セ
——露西亞ハ昨今御承知ノヤウニ段々
減ツテ居リマス、又亞米利加モ將來食糧
政策ノ對策トシテハ、餘程心配ヲ致シ
テ來テ居ルヤウデアリマス、殘ス所ハ
加奈陀、濠洲等ガ麥ノ產地トシテ有望
ト見ラレテ居ルヤウナ譯デ、歐羅巴各
國ハ何レモ輸入國デアリマス、是等ノ
關係カラ見マシテ是ハ至難ナ問題デア
ラウト思ヒマスガ、麵麪ヲ常食ト致シ
テ居リマス國ノ人口ノ増加ハ、過去二
十五年ノ增加ノ割合等ヲ調べテ見マス
ト、二十五年ニ一倍半ノ麥ノ生産ヲ要
求シテ居ルト云フヤウナコトデ、我ガ
日本ニ於テモ只今申上ゲル通リ耕地政
策——食糧政策ノ先決問題トシテノ耕
地政策、續イテ食糧政策ノ解決トシテ、
米ト相對シテ麥ノ調査ニ付テハ折角調
査致シテ居リマスケレドモ、繰返シテ
申上ゲマスガ、此頃申上ゲマシタヤウ
ニ鷄卵ノ自給自足ニ付テノ一ノ斷案ヲ
持ツテ居ルガ如クニ、麥ノ將來ニ付テ斷
案ヲ申上ゲルト云フコトハ、少シク今
其材料ニ乏シイ譯デアリマス、折角今
調査中デアリマス——大豆ノコトハ是
ハ麥ト趣ヲ異ニ致シマシテ、新開地開
墾等ノ助成ノ上カラ見マシテモ、是ノ
栽培ニ付テハ全ク別方面カラ研究ヲ致
スベキ必要ガアルト思フノデアリマ
ス、何レノ農作物ニ於キマシテモ、殊ニ
屢御引合ニナリマス所ノ麥ノ如キニ於

キマシテモ、窒素ノ研究ハ品種ノ改良
或ハ其同一面積ニ於テ其數量ヲ増シテ
行クト云フコトニ付テモ必要デアリマ
スガ、大豆ノ場合ニ於キマシテハ、是ハ
大豆其物ガ土中ニ固定致シマシテ、土
壌ヲ肥ヤスト云フ作用ヲ持ッテ居ルノ
デアリマス、デアリマスカラ、開墾新開
地等ニ於テ大豆ノ栽培ト云フコトハ、
其土壤ヲ肥ヤシテ參ルト云フニトニ於
テ缺クベカラザル一ツノ農作物デアリ
マスケレドモ、何分ニモ一方ニ大豆ノ
供給ハ我ガ日本内地ト比較致シマシテ
非常ナル供給力ヲ持ッテ居ル所ガアリ、
北海道等ニ於テ大豆ノ栽培ヲ致シマシ
テモ、需要ノ關係ト生産供給ノ關係ト
ガ洵ニ我國農作物ノ中デモ至難ナモノ
デアリマス、當局ニ於キマシテハ、大豆
ノ將來ニ付テ先刻申シマシタヤウナ、
土壤ヲ改良シ將來ノ増殖ト云フコトニ
付テモ、相當ニ研究致サナケレバ、ナラ
スモノト考ヘテ居リマスガ、大豆其物
ニ付テノ對策ト致シマシテハ、遺憾ナ
ガラ之ニ就テ自給自足ヲ致スト云フヤ
ウナ域ニ達スルコトハ、先ヅ望ミ餘リ
多カラザルコトト思ツテ居ルヤウナ譯
デアリマス

○井野農林書記官 「ミイドン」米ニ付
キマシテ簡単ニ申上ゲマスガ、「ミイド
ン」米ハ今生産地ニ於キマシテハ相當
ノ產額ガアルノデアリマスガ、玄米ト
シテ内地ヘ持ツテ來ル輸送ノ關係ニ於
テ、マダ十分研究ガ濟ンデ居リマセヌ
ノデ、此方ヘ持ツテ參リマスト品質上蒸
レトカ、フケトカガ出來マシテ、完全ナ
ル米トシテ内地米ヲ脅ス程度ニ至ツテ
居リマセヌ、差當リハ大シテ内地米ヲ
壓迫スル程度ノモノデハナイト大體考
ヘテ居リマス

○長田委員 終リニ臨ンデ私一言致シ
テ置キマスガ、先刻飯塚君ノ御質問ニ
モゴザイマシタ通リニ、消費者階級ノ
側ト、生産者側トノ間ノ利害ガ不一致デ
アルトカ云フコトハ免レナイ狀態デア
リマスケレドモ、併シ飯塚君ノ言ハレ
マシタ通リニ、其年限ヲ限ッテ或ル一定
ノ食糧ノ消費者ニ對スル負擔ヲ多クス
ル、併ナガラ、或年度ガ來タナラバ必ズ
自足自給ヲ爲シ得ル、更ニ詳ニ言ハバ
毎年食糧ニ對シテ三億萬程度ノ輸入ガ
アル、此三億萬程度ノ輸入ガ或ル一定
ノ年限ヲ經過スルナラバ、サウシテ極
ク輕微ナ負擔ヲ消費者階緩ガ甘ンズル
ナラバ、自足自給ガ爲シ得ル、サウシテ
輸入ガ消滅スル、斯ウ云フコトニナリマ
スルナラバ日本國民ノ特性トシテ、私
ハ消費者階級モ喜ンデ其負擔ヲ甘ンズ
ルデアラウト信ズルノデアリマス、故

ニ農林省否ナ政府ノ施設方法ハ、此食糧政策ニ對シテヨコ數年ノ間ニ自足自給ヲ爲シ得ルト云フコトノ根本的ノ御取調ヲ願^ツテ、吾ニ御示シ下サラムコトヲ得ルナラバ、消費者階級ノ氣分ヲ少シモ唆ラズニ、滑カニ消費、生産、相通ジテ此問題ヲ解決スルコトガ出來ルト思フノデアリマス、甚ダ難キヲ強ユルヤウデアリマスケレドモ、私ハ既ニ鶏卵ニ對シテ此案ヲ立テタ以上ニハ、大豆及小麥ニ對シテモ立テナケレバナラヌト思ヒマス、ドウカ一段ノ御鞭撻ヲ願^ツテ、此點ニ對スル明確ナル政策ヲ御立テ下サルコトヲ切望シ、其數字及び年限等ヲ御示シ下サルコトノ出來ルコトノ早カラソコトヲ希望致シマス○堀切委員 一寸關聯シテ……私ハ鳥卵ノ今ノ六年計畫デ自給自足ガ出來ルト云フコトハ、洵ニ結構ナ案ガ出來タト思ヒマス、併シ之ニハ大ナル疑^フ私モ矢張持^ツテ居ルノデアリマスガ、其今ノ計畫ノ統計ヲ私共頂戴致シタイト思ヒマス○小山政府委員 ソレハ鶏卵ダケデスカ○堀切委員 只今ノ所ハソレダケデ宜イノデス、併シ他ニ出來タ良イモノガアレバ、御一緒ニ貰ヒタイト思ヒマス○小山政府委員 鶏卵ノ自給自足、是ハ先日一般御質問ノ場合ニ偶私ハ申上ゲタ、是ハ簡單ナモノデアリマスガ、出

來テ居リマスレバ、皆様ニ差上ゲマス、
唯此場合ニ私ハ附加ヘテ置キタイノ
ハ、政府當局ト致シマシテハ、此計畫ヲ
立テテ之ノ出來ルヤウニ非常ナ努力ヲ
致シテ居ル譯デアリマス、ドウゾ農家
ノ副業トシテ、現在大分發達シテ來テ
居リマス此鷄卵増殖ノ事ニ付キマシテ
モ、其能率ヲ上ゲルヤウニ私ハ一般養
鷄業者ニ望ンデ置キタイト思フ、政府
ダケ獨リ先ヘ進ミマシテモ、當業者協
力シテ此施設ト相俟テ參リマセヌケ
レバ、自給自足計畫モ六年ガ十年ニナ
ルト云フコトデアリマス、此點ハ改メ
テ私ハ申上ゲテ置キマス、尙ホ此材料
ハ出來テ居リマスレバ早速差上ゲマ
ス、若シ出來テ居リマセヌケレバ成ベ
ク急ニ拵ヘテ御手許ニ差上ゲヤウト思
ヒマス

縣ニ栽培致シテ居リマスガ、北海道ガ主ナ生産地テアリマス、是ハ大ニ將來生産ノ餘地ガアルダラウト思ヒマス、現在ニ於キマシテモ年々生産ハ多少殖エテ居リマス、是ハ相當將來ノアル農產物ダト考ヘテ居リマス

○山内委員 只今ノ御説明ニ依テ承知致シマシタガ、總テ工業ニ關スル保護政策ノ上ニ於カレマシテハ、僅カ内地ノ需要ノ一割ニモ足ラヌヤウナ日本ノ生產品ニ重稅ヲ課シテ、其事業ノ發達スルコトヲ掩護セラレテ居ル傾ガアル、斯ノ如キ「オート」ノ如キモノモ今御説明ノヤウデアレバ、何等カ保護セラレタナラバ、是シキノコトハ自給自足ガ出來ルモノデハアルマイカト思ハレルノデアリマスガ、今現行率ノ儘ニ置イテ居ツテモ、將來發達ノ見込ガアルト云フ御見込デアリマセウカ、其點ヲ御伺致シマス

○間部農林技師 現在ノ生産ノ年々多少ヅツ増加シツツアル狀況カラ考ヘマスト云フト、大體現行ノ稅率ヲ以テシテマア～～生産ハ相當ニ増加スルモノト云フ見込デアリマス

○岡田委員 私モ一二御尋致シマス、第一ニ矢張十二ノ米及穀ニ付テデアリマスガ、是ハ朝鮮臺灣ノ產米計畫ノ大要ヲ承リマス必要ガアルノデアリマスガ、アノ朝鮮ノ產米增殖計畫ト云フモノハ、大正九年ニ樹テタ～～ノ計畫ガアリマスガ、今度ヤツテ居ルノハアレノ

○小山政府委員 御尋ノ朝鮮ノ產米計畫ハ、大正九年ノ時ニ樹テマシタモノニ今回少シ補足ヲ致シテ、此計畫ヲ樹テテ居ルヤウデアリマス、併ナガラ此產米計畫ノ内容ノ細カイコトニナリマスレバ、是ハ所管外ノコトデアリマスルカラ、若シ御必要デアリマスレバ、朝鮮總督府ノ政府委員ヲ委員長ノ請求ニ依テ御呼ヲ願ヒマス、サウシテ御説明ヲ願フ方ガ捷徑デアルト思ヒマス
○岡田委員 ソレハ必要ガアリマシタラ別ニ願フコトニ致シマシテ、少シ機微ニ觸レテ見マセウ、アノ大正九年ノニ依リマスト、十五箇年ニ四十萬町歩ノ土地ノ改良ニ依テ九百萬石ノ米ヲ増スト云フ計畫デアルノデアリマス、昨今伺^ツテ見マスルト、大體其内容デアラウカト思ヒマスガ、併シ又ソレニ補足シテト云フノデアリマスカラ、是レ以上完全ナモノト思ヒマス、吾ミハ朝鮮ノ產業ノ開發カラ云ヒマシテモ、内地ノ食糧生産カラ云ヒマシテモ、斯様ナコトハ最モ必要デモアリ賛成スルノデアリマスガ、唯常ニ私共ガ言^ツテ居リマスヤウニ、今日ノ經濟界ニ於キマシテハ物ノ總量ガ何處カニ出來サヘスレバ宜シイト云フ譯デハナクシテ、其生産ナリ分配ナリガドウナ^ツテ居ルカト云

フコトニ付テノ歸着點ト云フコトガ非常ニ重要デアリマスルカラ、國策ノ大體ニ向ツテ吾ニ意見ヲ述ベルノデハアリマセヌガ、斯ウ云フヤウナ大計畫ノ結果ガ、豫期ノ目的ノ如ク全國民ノ幸福ニナルヤウニ都合好ク行クカ、行カヌカト云フコトニ對シテノ疑義ヲ持ツテ居リマスカラ、御尋スルヤウナ次第地トハ第一同ジモノヲ作ッテ居ルモノ、生活程度ガ違ヒマスルシ、重要生産費タル所ノ土地ノ公課ナリ、其他義務ガ大變違フノデアリマス、ソレデモ出来テ來ルモノノ質デモ大變違フナラバ又茲ニ自然ノ緩和ガ起リマスガ、其產米ノ品質ハ今日ハ京阪市場ニ於キマシテモ、内地米ノ價格ヲ支配シテ居ルヤウナモノデアリマスカラ、一面ニハ生産費ガ非常ニ安イ状態ニ置カレテ居ルモノト非常ニ高イ状態ニ置カレテ居ルモノ、即チ土地ノ公課ナドデモ内地ノ穀作地ノ如ク土地ニ大ナル負擔ヲ持ツテ居ルノハ恐ラク世界ノ文明國ニハナイト思ヒマスルガ、ソレ等トガ同じヤウニナツテ總計サヘ行ケバト云フテ不都合ノ起ラナイヤウニ御注意ヲ願故ニ成ベクダケ此目的ヲ達成スル曉ニヒタイト云フノガ根本ノ意見デアリマス、所ガ米穀法ト云フモノニ依テ、内地ノ產米ニ對シテハ量モ價格モ適當ニ調

節セラルル精神ニナッテ居リマスガ、是モ吾ミノ立場カラ言ヒマスト云フト、多大ノ疑義モアリマスルシ、又改正ヲラレナイ結果トシマシテ、彼ノ關稅定率法ノ六條ノ規定ト云フモノハ、朝鮮ナドニノミアレガ用ヲ爲スヤウニナツテ來テ居ル、ソコデ先刻長田君ノ質問サレタヤウナ事ガ起ツテ來マシテ、安ク外來ガ朝鮮ニ這入ツテ、サウシテ内地米ト同ジヤウナモノガ入替ツテ來ルト云フコトニナルノデアリマスカラ、其間ニ付テノ關係ハ相當考慮シテ、是ガ果シテ不都合ノナイ、同ジ日本ノ國民デアリナガラ、朝鮮ノ米ノ増スコトヲ内地ノ農民ガ怨ムノ何ダノト云フヤウナコトガアツテハナラヌト思ヒマスガ、マヅイコトヲシマスト、サウ云フ事モ起ル、背ニ腹ハ代ヘラレヌト云フコトニナレバ、朝鮮米ガ餘リ澤山來ル爲ニ安クナツテ仕方ガナイト云フコトニナレバ、國家ノ大計畫ニ對シテモ何ダカ叱言ヲ言ツテ怨ミヲ言ツテ來ネバナラヌヤウナ立場ニ已ムヲ得ズナルノデアリマス、所ガ其關係ニ對シテ曩ニ次官ハソト思ヒマスガ、其無イト云フコトニ付テ何カ斯々ノ計畫ナルガ故ニサウ云フコトハナイト云フヤウナ、多少根據ガ殆ド確信出來ルヤウナ言葉ヲ以テ御答ニナリマシタガ、サウデアレバ仕合セ

アリマセウカ、或ハ又個々ノ意見トシテ無イト思フト云フノデアリマセウカ、チヨット其邊ヲ御伺ヒ致シマス○小山政府委員申上ゲマス迄モナク、我國ノ過去ノ人口ノ増加率ト、常食ト致シテ居リマスル米ノ供給ト、其兩者ヲ對照シテ御調ベラ願ヒマスレバ、今後十年二十年ノ將來ニ、其需給關係ハ如何ナル推算ヲシ得ルカト云フコトハ、自ラ出テ參ラウト思ヒマスガ、曩ニ行ハレマシタ國勢調査ニ依ル我國人口ノ増加ノ割合ト、此頃行ハレマシタモノトノ人口増加ノ割合トヲ見マシテモ、其増加率ハ此頃ノ方ガ率ガ多クナッテ居リマス、此勢ヲ以テ將來人口ガ増加シテ參リマスレバ、朝鮮ノ產米計畫ニ依テ所期ノ目的ヲ擧ゲ得タル——即チ約八百萬石ノ生産ノ成績ヲ擧ゲ得タリト致シマシテモ、私ハ此自給推算ノ基礎ノ調査ノ上ニ基イテ、内地ニ於ケル今後ノ生産ノ上ニ大脅威ガ來ルデアラウト云フヤウナコトハ考ヘマセヌ、是ハ何カ根據ガアルカト云フコトデアリマスガ、根據ハ過去ノ數字ト、此數字ニ基イタル推算トヲ基礎ト致シマステ、斯様ニ申上ゲタ譯ニアリマス○岡田委員ソレデハ斯ウ云フ意味ニ解シテ宜シウゴザイマスカ、脅威ト云ヒマシテモ、必要ダケ増ス方ナラ大シタ脅威ハナイト思ヒマス、唯浮動米ト見ルベキモノガ生産サレルトキニ於テハ、ソレハ外米ノ輸入位デハナイ、少々

ノモノガ非常ニ脅威スルノデアリマ
ス、御承知ノ通リニ米價ノ變動ト云フ
モノハ、數量ガ一割増減ガアレバ、價格
ハ一割八分カ二割カ、二割四五分位變
動スル、常ニ量ノ增減率ヨリ價格ノ騰
落率ノ方ガ大ナノデアリマスカラ、ソ
レデ生産者ノ立場カラ云ヒマスト、積
數ヲ取ツテ樂シムト云フ時ハ過去ツテ居
リマシテ、計算上常ニ其收益ノ多イト
云フコトヲ今日基礎トシテ考ヘルヤウ
ニナツタノデアリマスカラ、サウ云フ時
ヲ憂ヘルノデアリマスガ、今ノ御計畫
ニ依ルト云フト、需要ノ増ス以上ニ増
スヤウナコトハナイ、斯ウ云フ御見込
デアルト見テ宜シイノデアルカ、ドウ
デスカ

五穀トシテ食糧政策ノ根本ニ舉ゲラレ
出來ル所ノ物ガ擇ビ出サレテ、一ツノ
テ居リマシタガ、今日ハ其中ノ粟ダノ
黍ダノ稗ダノト云フモノハ、農業經營
ノ變遷ニ依リマシテ、是ハ殆ド無クナ
リマシタガ、唯茲ニ是等ヲ代表スルモ
ノガ殘ツテ居ッテ、永久ニ消滅スルコト
ノナイ所ノ麥類ガアルノデアリマス、
是ハ實情カラ申シマシテモ、農業經營
ノ方カラ云ヒマシテモ、食糧カラ云ヒ
マシテモ、非常ニ是ハ重要ナノデアリ
マシテ、假ニ食量政策ノ方カラ云ヒマ
シテモ、私ハ我國ノ如キハドウシテモ
米ト麥類ト、所謂兩本位デナケレバイ
ケナイノデハナイカト思フノデアリマ
ス、所ガ此間カラノ毎回ニ於ケル質問
ニ對シテノ御答デハ、麥モ重要視シテ
居ルト云フ風ニ伺ハレマスガ、何所ヲ
調ベマンシテモ、實ハサウ云フ實際ノ政
策ガ見エナイ、御説明ニ依レバ大事デ
アルト云フヤウナ意味ハ伺ハレマス
ガ、ソレダケデハ何ニモナラヌノデアッ
テ、大事デアルカラ斯々ノ事ガシテア
ル、米ニ對シテハ斯様ナ計畫デ、一億圓
掛カラウガ、三億圓掛カラウガ、朝鮮、
臺灣其他ニ金ヲ掛ケテヤラウ、併ナガ
ラ麥類ニ對シテハドウスウ云フコトガ
一向見エナイヤウデアリマス、是ニ於
テ私共ハ矢張根本ニ疑義ヲ持ツテ居ッテ
米一ツバカリデ行カレルノデアルカ、

○小山政府委員 只今御尋ノ中デ、麥ニ對シテハ何等施設スベキ跡ヲ認メナイ、甚ダ輕ンジテ居ルデハナイカト云フ風ナ御意見ノヤウデアリマス、是ハ私共頗ル遺憾ト致シマス、過日モ屢申上ゲマシタガ、吾々農務行政ニ携ハル者ハ、最善ヲ盡シテ其意ノ在ル所ヲ完ウシタイ、是ガ爲ニ大正十五年度豫算ニ於テモ、現内閣ハ緊縮政策ヲ執^テ居ルニモ拘ラズ、農林省ヲ獨立セシメマシタ其使命ノ點ニモ考ヘマシテ、農村振興ノ方面ニ一段ノ努力ヲシテ、而シテ現内閣ガ斯様ニ緊縮政策ヲ執^テ居ルニモ拘ラズ、農村振興ノ上ニ、我ガ國産政策ノ上ニ斯々ノ努力ヲ拂^テ居ルト云フ實ヲ示ス爲ニ、農村振興ニ關シマスル特別基金法ノ上ニモ、十四年年度ニ於テ御協賛ヲ經^テシタ二百五十萬圓、此上ニ更ニ十五年度ニ於テハ貨幣鑄造益金ニ依ル所ノ七十二萬圓ヲ更ニ之ニ加ヘテ、而シテ教育改善ト農村振興ト、此兩方ニ何レモ偏重偏輕ノナインヤウニ、教育改善ノ方ノ數字ニ稍匹敵スベキヤウナ點ニマデ私共ハ努力致シタ、此事ニ付テハ詳シクハ又豫算ノ御審議ノ場合ニ私ハ繰返シテ申上ゲマス、此七十二萬圓ノ金ハ積極的ニ農村振興ニ付テ、今後毎年——是ハ基金ノ

益金デアリマスカラ、議會ニ於テ御變更ニナラザル限りハ、此積極的ノ支出ガ續クノデアリマス、私共ハ相當ニ諸君カラ多少其勞ヲ多トスルト云フヤウナ御言葉デモ聽キ得ルコトデアラウトマデ、私ハ確信ヲ持チ自信ヲ持ッテ努力致シテ來テ居ル、其中ニ麥ノ問題ニ付テハ甚ダ輕少デアリマスケレドモ、何等施設ノ見ルベキモノガナイト云フ御言葉デアルナラバ、之ヲ掲ゲナケレバナラヌノハ、十五年度ニ於テ麥ノ栽培ニ關シテ十萬圓ノ費用ヲ取ツテ居リマス、即チ七十二萬圓ノ中十萬圓、農村ハ麥ノ事ニ止マラズ、農務行政ニ於テモ、山林ニ於テモ、畜產ニ於テモ、水產ニ於テモ致サナケレバナラヌ中ニ、漸クニシテ非常ナル努力ヲ以テ取りマシタ七十二萬圓ノ中カラ、麥ノ栽培ト云フコトダケニ十萬圓モ之ニ取ツテ居ル、是ハ何ガ故デアルカト云ヘバ、麥ハ裏作デアツテ、農家經濟ニ注意ヲ要スル所ノ農產物デアツテ、而シテ我國ノ製粉業ノ現狀ト將來カラ考ヘテ、深ク此點ニ留意ヲシナケレバナラナイ、食糧政策ノ上カラ見テモ勿論デアリマス、是ガ爲ニ只今申上グマスヤウニ、各方面ノ施設ヲ致サナケレバナラヌ中ニ、當局ト致シマシテハ苦心ヲ致シテ茲ニ十萬圓ト云フ、謂ハバ虎ノ子ノヤウナ十萬圓ヲ麥ノ方ニ充テ施設致シテ居ル、更ニ十六年度ニ於テハ此七十二萬圓ハ當然七十五萬圓ニ貨幣鑄造益金ニ依テナッ

テ參リマスカラ——是ハ豫算編成ニ事
實上ナツテ參リマスカラ其場合ニ於テ
ハ此度ハ栽培ニ一段ノ努力ヲシテ、而
シテ今度ハ粒ノ改良ヲスル、即チ麥ノ
粒ノ改良ハ是モ當局ノ考ハ既ニ成ッテ
居リマス、唯豫算ノ餘裕ガアリマセヌ
カラ、十六年度ニ於テスルト云フコト
ニナツテ居リマス、岡田君ハ其方面ニ於
テハ十分御研究ノ方デアリマシテ、先
刻モ申上ゲマシタガ、埼玉縣ノ麥ノ粒
ノ改良ノ如キハ、外國カラ這入ツテ來マ
スモノト、埼玉縣ノ品種ノ改良ヲシタ
モノトハ殆ド一致シテ來テ居リマス、
麥ノ歩止リト云フユトモ外國品ニ劣ラ
ヌヤウニナツテ居リマス、是等ヲ模範ト
シテ、而シテ將來更ニ一段ノ努力ヲ致
ス、斯ウ考ヘテ居リマス、何等見ルベキ
モノガ無イト仰セニナルト、ドウモ手
前味噌ノヤウデアリマスガ、一言御參
考ニ申上ゲタイヤウナ氣ガ致シマスノ
デ、ドウゾ其點ハ豫算ノ上デ御認ヲ願
ヒタイト思ヒマス

上堪ヘナイ、幾ラ需要ガアッテモ増スコトガ出来ナイノデ困ルカラト云フヤウナ趣意デ御質問シタ場合ニ、農林大臣其他ノ方ミノ御答デハ、關稅バカリデハイケナイ、關稅ノ方ハ一面消費者ノ關係モアルカラ成ベク低クシテ置イテ、引合ハナケレバ他ノ方法デ是ハ相當ニ引合フヤウニ、麥作ノ維持ナリ、農村ノ振興ナリヲ圖ルヤウナ御言明デアツタノデアリマス、從來ハ大抵サウ云フヤウナ御答辯デ濟ンデ居タデアラウト私ハ想像シマス、ソレデ私ノ御尋シタイノハ關稅ハ現實ノ問題デアリマシテ、施行スルヤ否ヤ一圓ナリ三圓ナリ響ク、價額ニ影響スルシ、サウシテソレガ又生産増殖ニ影響スルノデアリマス、農業者ノ心理ハ御承知ノ通り植付ケタ後ニ値ガ出ルト云フト、翌日カラ變更シテ植付ヲ増シタリスルノガ一般農業者ノ心理デアリマスカラ、價額ガ常ニ量ヲ支配スルコトニナル根本デアリマス、ケレドモ農業者ト雖モ價額ハ總量ヲ言ヒマス、必ズ單位ノミデナイ、一石幾ラト云フノハ便宜ノ爲ニ言フノデアリマスガ、總緒上高ニ於テ相當ノ收入ガアレバ何トモ言ヒマセヌ、故ニ何モ關稅デナクテモ、他ニ栽培ノ技術ノ上ニ於テ直ニヤツタナラバ利益ヲ擧ゲラレルヤウナ方法ガアレバ、誠ニ結構デアリマスカラ、農業者ハソレヲ採ツテ行ヒマス、所ガ不幸ニシテ今日ハドウモ大抵技術者ナリ學者ガ研究シ

ニ角モデアリマスガ、斯クスレバ、利益ニナルト分ツテ居ル方法ハ皆農業者ガ行ツテ居ルト思ヒマス、私共ハ年中ソレニ掛ツテ居ルノデアルカラ、大抵サウ云フコトハ漏ナク見テ居ル積リデアリマス、何所デ何カ一寸事ガアレバ、ソレヲ何所マデモ傳ヘテ行ハシテ居リマスガ、ソレ等ヲ現在ノ所ヤツテ——有効ナリト思フコトハヤツテ、ソレ等ヲ勘定ニ入レテ、其上デ尙ホ引合ハナイト云フヤウナ現状デアリマスガ、併ナガラ一般ノ農事試験場ニモマダ此方法ガアル、之ヲヤレバ何モ關稅ヲ上ゲヌデモ宜イト云フコトガアレバ、ソレヲ伺ヒタ伊、ソレハ極メテ大切デアリマス、所ガ其問題ハ是カラ研究シナケレバナラヌ、今ハ兎ニ角何レノ時カ引合ガ取レルヤウナ改良法ガ發見サレルデアラウカラ、ソレ迄ハ少々損ヲシテモ我慢シテ居レ、食込ミガ行ケバ自作地ヲ賣ッテ小作者ニナッテ居テ我慢シロ、小作者ニナッテモ自作農創設ガアルカラ、其中ニソレニ依テモ宜イデナイカト云フ意味ノ良法ト云フナラ、ソレハ問題ニナラヌ、關稅ト交換ニ此レデヤルカラ此レト云フノデナイ、將來ニアルデアラウト云フ想像ノモノヲ持ツテ來テ、現在直ニ利益ノ多少ト云フコトヲ支配スル問題ト變ヘテヤルダノト云フコトヲシテ居リマスレバ、吾ミガ常ニ言ツテ居ル生産者ハ常ニ犠牲ニナル、ソコデ私共能

ク聽キマスガ、吾ミガ斯様ナコトヲ述
ベルノハ農村振興ノ爲デナイ、世間デ
フ語ヲ附ケレバ、國家ノ振興ト云フ積
云フコトガ國家ノ爲ニ宜クナイト云フ
立場カラ行クノデアリマスカラ、何モ
農村振興ダノト云フ一般ノ小サイ意見
デハナイ、國家ノ圓滿ナル發達ノ下ニ
於テ、圓滿ナル振興ニハスクナケレバ
ナラヌト云フ見地カラ言ッテ居ルノデ
アリマスカラ、ソレガ今ハ無イガ、是カ
ラ研究シタラ何カアルデアラウト云フ
ノデアリマシテハ、今關稅ニ於テソレ
ト交換スルコトハドウモ出來ヌ、デア
リマスカラ今ノ所ハ引合ハナイト云フ
コトモ御認ガアルナラバ、サウシテ又
先刻カラ御話ノヤウニ根本方針ガ、麥
モ十分生産シテヤルト云フ御意見ナラ
バ、生産ヲ増加シ得ベキ現實ノ方法ガ
ナケレバナラヌ、明治四十三年ニ此關
稅定率法ガ定メラレタ時ト今日トヲ比
較シテ見マスルト、產額ハ百ニ對シテ
百十四デアリマスガ、消費ハ百ニ對シ
テ百九十一、輸入ガ百ニ對シテ八百六
トナツテ居ル、サウ云フヤウニ消費ガ增
係デナイ、栽培法ガドウトカ、品種ガド
ウト云フコトダケデ御覽ニナルト、ソ
レデハ農業政策ガ立タナイト思ヒマ

ス、故ニ吾ミハ無理ヤリニ關稅ヲ上ゲ
シテ貰ハナケレバナラヌト云フノデモナ
イ、國家ノ爲ニ、國家ノ圓滿ナル振興ノ
爲ニ農業者ニ苦痛ヲ與ヘルコトハ宜ク
ナイ、現在ノ色ニナ關係カラ、今日ハド
ウシテモイカナイカラ、先づ關稅ト云
ウテ居リマスガソレデナクテモ此レ
ガアルト云フコトナラソレデモ宣イ
ガ、具體的ノ事ガアレバソレヲ伺ヒタ
イト思ヒマス

○小山政府委員 屢々申上グタト同一
ノ事ヲ繰返スヤウデ、甚ダ御満足ニナラ
ヌカ知レマセヌガ、私ハ今御質問ノヤウ
ナコトヲ、關稅政策ノミヲ以テ其生産ノ
保護ヲスルト云フコトニナリマスレバ、
例ヘバ麥ニ致シマシテモ小麥ニ致シマ
シテモ、吾々ハ之ヲ何倍ノ關稅ニシナケ
レバ、其所期ノ目的ヲ達スルコトガ出
來ナイト云フヤウナコトニナラウト思
ヒマス、而シテ麥ノ栽培ヲシテ居ル方
ダケハ、或ハソレデ御満足ニナルカモ
知レマセヌケレドモ、麥ハ御承知ノ如
ク輸入致シテ居ルモノモ、相當ノ數量
ニナツテ來テ居ル、而シテ一方ニハ先刻
飯塚君ノヤウナ御意見モアル譯デアル、
ソコデ今ノ御說ノヤウナ政策ヲ執リマ
スレバ、今度ハ消費者階級ノ生活ニ多
大ノ不安ヲ與ヘルコトニナリマス、ソ
ンナ不安ハ與ヘテモチットモ差支ナイ、
生産者ノ保護サヘスレバ宜イト云フ御
意見デアリマスレバソレハ御意見ト
シテ承リマスガ、政府當局ト致シマシ

テハ、生産者ノ方面ノコトモ考慮シ、之ヲ保護シ、而シテ消費者ノ方ノ生活ノ安定ト云フコトニ對シテモ其不安ヲ來サヌヤウニ、兩々相俟テ以テ、社會ノ彼ノ生存上ノ何レノ脅威ヲモ除クト云フコトニ致シ、國家產業ノ將來ノコトモ考ヘテ行キタイ、斯ウ云フ譯デ、先日來モ屢申上ゲマシタヤウナ譯デアリマス、而シテ私ハ唯關稅ノミノ保護ト云フガ如キ消極的ノコトデナク、更ニ一步進ンデ、積極的ニ大ニ國民協力シテ其施設ヲ致スト云フコトガ、將來食糧政策ノ解決ノ上ニモ資スベキコトデハナイカ、是ガ爲ニハ先刻モ思上ゲマシタヤウニ、積極的施設モ宜イノデアル、斯ウ申上ゲタ譯デアリマスカラ、要ハナ次第デアリマス、何卒左様御諒承ヲ願ヒマス。

○岡田委員 ドウモ私共腑ニ落チマセヌガ、サウスルト政府ノ御見込デハ、現

在ハ農業者ハ別ニ生活ノ脅威ヲ受ケテ居ナイ、マア是ナラドウカスウカヤレルノダ、ソレニ其上關稅ヲ増シテ行クト云フコトニナルト、農家ハ宜イカモ知レヌガ、消費者ガ困ルト云フ御意見デアリマス、ソレハサウ出フ御議論モ立チマセウ、私共ハ現在ノ狀態デハ農家ガ脅威ヲ受ケテ居ルノダ、此間モ申多イガ、又賣方ノ側カラ云ヘバ損ヲシ

テハ、原料品、食糧品ト云フモノハ無稅

云フ御言葉ガアリマスガ、ソレガ實際

ト一一致シナイヤウニ思ヒマス、ソレデ

ラ、一方農業ノ生產ノ方ノ事モ考ヘ、而

モ屢申上ゲマシタヤウナ譯デアリマ

ス、而シテ私ハ唯關稅ノミノ保護ト云

フガ如キ消極的ノコトデナク、更ニ一

歩進ンデ、積極的ニ大ニ國民協力シテ

其施設ヲ致スト云フコトガ、將來食糧

政策ノ解決ノ上ニモ資スベキコトデハ

ナイカ、是ガ爲ニハ先刻モ思上ゲマシ

タヤウニ、積極的施設モ宜イノデアル、

斯ウ申上ゲタ譯デアリマスカラ、要ハ

ナ次第デアリマス、何卒左様御諒承ヲ

願ヒマス。

○岡田委員 ドウモ是ハ根本ノ見解ガ

ヤラ分ラヌノダ、斯ウ云ウヤウナ懸念

ヲ持ッテ居リマス、故ニ今マデ上ゲテ置

イテアツタカラ下ゲルト云フコトナラ、

是ハ結構デアリマス、ケレドモ是カラ

生産、消費ノ兩方面カラ慎重ニ考慮致

シマシテ、以テ原案ノ御審議ヲ得ルヤウ

ナ次第デアリマス、何卒左様御諒承ヲ

願ヒマス。

○岡田委員 ドウモ私共腑ニ落チマセ

ヌガ、サウスルト政府ノ御見込デハ、現

在ハ農業者ハ別ニ生活ノ脅威ヲ受ケテ

居ナイ、マア是ナラドウカスウカヤレ

ルノダ、ソレニ其上關稅ヲ増シテ行クト

云フコトニナルト、農家ハ宜イカモ

ト云フコトニナルト、農家ハ宜イカモ

立チマセウ、私共ハ現在ノ狀態デハ農

家ガ脅威ヲ受ケテ居ルノダ、此間モ申

多イガ、又賣方ノ側カラ云ヘバ損ヲシ

テハ、原料品、食糧品ト云フモノハ無稅

云フ御言葉ガアリマスガ、ソレガ實際

ト一一致シナイヤウニ思ヒマス、ソレデ

ラ、一方農業ノ生產ノ方ノ事モ考ヘ、而

モ屢申上ゲマシタヤウナ譯デアリマ

ス、而シテ私ハ唯關稅ノミノ保護ト云

フガ如キ消極的ノコトデナク、更ニ一

歩進ンデ、積極的ニ大ニ國民協力シテ

其施設ヲ致スト云フコトガ、將來食糧

政策ノ解決ノ上ニモ資スベキコトデハ

ナイカ、是ガ爲ニハ先刻モ思上ゲマシ

タヤウニ、積極的施設モ宜イノデアル、

斯ウ申上ゲタ譯デアリマスカラ、要ハ

ナ次第デアリマス、何卒左様御諒承ヲ

願ヒマス。

○岡田委員 ドウモ私共腑ニ落チマセ

ヌガ、サウスルト政府ノ御見込デハ、現

在ハ農業者ハ別ニ生活ノ脅威ヲ受ケテ

居ナイ、マア是ナラドウカスウカヤレ

ルノダ、ソレニ其上關稅ヲ増シテ行クト

云フコトニナルト、農家ハ宜イカモ

ト云フコトニナルト、農家ハ宜イカモ

立チマセウ、私共ハ現在ノ狀態デハ農

家ガ脅威ヲ受ケテ居ルノダ、此間モ申

多イガ、又賣方ノ側カラ云ヘバ損ヲシ

テハ、原料品、食糧品ト云フモノハ無稅

云フ御言葉ガアリマスガ、ソレガ實際

ト一一致シナイヤウニ思ヒマス、ソレデ

ラ、一方農業ノ生產ノ方ノ事モ考ヘ、而

モ屢申上ゲマシタヤウナ譯デアリマ

ス、而シテ私ハ唯關稅ノミノ保護ト云

フガ如キ消極的ノコトデナク、更ニ一

歩進ンデ、積極的ニ大ニ國民協力シテ

其施設ヲ致スト云フコトガ、將來食糧

政策ノ解決ノ上ニモ資スベキコトデハ

ナイカ、是ガ爲ニハ先刻モ思上ゲマシ

タヤウニ、積極的施設モ宜イノデアル、

斯ウ申上ゲタ譯デアリマスカラ、要ハ

ナ次第デアリマス、何卒左様御諒承ヲ

願ヒマス。

○岡田委員 ドウモ私共腑ニ落チマセ

ヌガ、サウスルト政府ノ御見込デハ、現

在ハ農業者ハ別ニ生活ノ脅威ヲ受ケテ

居ナイ、マア是ナラドウカスウカヤレ

ルノダ、ソレニ其上關稅ヲ増シテ行クト

云フコトニナルト、農家ハ宜イカモ

ト云フコトニナルト、農家ハ宜イカモ

立チマセウ、私共ハ現在ノ狀態デハ農

家ガ脅威ヲ受ケテ居ルノダ、此間モ申

多イガ、又賣方ノ側カラ云ヘバ損ヲシ

テハ、原料品、食糧品ト云フモノハ無稅

云フ御言葉ガアリマスガ、ソレガ實際

ト一一致シナイヤウニ思ヒマス、ソレデ

ラ、一方農業ノ生產ノ方ノ事モ考ヘ、而

モ屢申上ゲマシタヤウナ譯デアリマ

ス、而シテ私ハ唯關稅ノミノ保護ト云

フガ如キ消極的ノコトデナク、更ニ一

歩進ンデ、積極的ニ大ニ國民協力シテ

其施設ヲ致スト云フコトガ、將來食糧

政策ノ解決ノ上ニモ資スベキコトデハ

ナイカ、是ガ爲ニハ先刻モ思上ゲマシ

タヤウニ、積極的施設モ宜イノデアル、

斯ウ申上ゲタ譯デアリマスカラ、要ハ

ナ次第デアリマス、何卒左様御諒承ヲ

願ヒマス。

○岡田委員 ドウモ私共腑ニ落チマセ

ヌガ、サウスルト政府ノ御見込デハ、現

在ハ農業者ハ別ニ生活ノ脅威ヲ受ケテ

居ナイ、マア是ナラドウカスウカヤレ

ルノダ、ソレニ其上關稅ヲ増シテ行クト

云フコトニナルト、農家ハ宜イカモ

ト云フコトニナルト、農家ハ宜イカモ

立チマセウ、私共ハ現在ノ狀態デハ農

家ガ脅威ヲ受ケテ居ルノダ、此間モ申

多イガ、又賣方ノ側カラ云ヘバ損ヲシ

テハ、原料品、食糧品ト云フモノハ無稅

云フ御言葉ガアリマスガ、ソレガ實際

ト一一致シナイヤウニ思ヒマス、ソレデ

ラ、一方農業ノ生產ノ方ノ事モ考ヘ、而

モ屢申上ゲマシタヤウナ譯デアリマ

ス、而シテ私ハ唯關稅ノミノ保護ト云

フガ如キ消極的ノコトデナク、更ニ一

歩進ンデ、積極的ニ大ニ國民協力シテ

其施設ヲ致スト云フコトガ、將來食糧

政策ノ解決ノ上ニモ資スベキコトデハ

ナイカ、是ガ爲ニハ先刻モ思上ゲマシ

タヤウニ、積極的施設モ宜イノデアル、

斯ウ申上ゲタ譯デアリマスカラ、要ハ

ナ次第デアリマス、何卒左様御諒承ヲ

願ヒマス。

○岡田委員 ドウモ私共腑ニ落チマセ

ヌガ、サウスルト政府ノ御見込デハ、現

在ハ農業者ハ別ニ生活ノ脅威ヲ受ケテ

居ナイ、マア是ナラドウカスウカヤレ

ルノダ、ソレニ其上關稅ヲ増シテ行クト

云フコトニナルト、農家ハ宜イカモ

ト云フコトニナルト、農家ハ宜イカモ

立チマセウ、私共ハ現在ノ狀態デハ農

家ガ脅威ヲ受ケテ居ルノダ、此間モ申

多イガ、又賣方ノ側カラ云ヘバ損ヲシ

テハ、原料品、食糧品ト云フモノハ無稅

云フ御言葉ガアリマスガ、ソレガ實際

ト一一致シナイヤウニ思ヒマス、ソレデ

ラ、一方農業ノ生產ノ方ノ事モ考ヘ、而

モ屢申上ゲマシタヤウナ譯デアリマ

ス、而シテ私ハ唯關稅ノミノ保護ト云

フガ如キ消極的ノコトデナク、更ニ一

歩進ンデ、積極的ニ大ニ國民協力シテ

其施設ヲ致スト云フコトガ、將來食糧

政策ノ解決ノ上ニモ資スベキコトデハ

ナイカ、是ガ爲ニハ先刻モ思上ゲマシ

タヤウニ、積極的施設モ宜イノデアル、

斯ウ申上ゲタ譯デアリマスカラ、要ハ

ナ次第デアリマス、何卒左様御諒承ヲ

願ヒマス。

○岡田委員 ドウモ私共腑ニ落チマセ

ヌガ、サウスルト政府ノ御見込デハ、現

在ハ農業者ハ別ニ生活ノ脅威ヲ受ケテ

居ナイ、マア是ナラドウカスウカヤレ

ルノダ、ソレニ其上關稅ヲ増シテ行クト

云フコトニナルト、農家ハ宜イカモ

ト云フコトニナルト、農家ハ宜イカモ

立チマセウ、私共ハ現在ノ狀態デハ農

家ガ脅威ヲ受ケテ居ルノダ、此間モ申

多イガ、又賣方ノ側カラ云ヘバ損ヲシ

テハ、原料品、食糧品ト云フモノハ無稅

云フ御言葉ガアリマスガ、ソレガ實際

ト一一致シナイヤウニ思ヒマス、ソレデ

ラ、一方農業ノ生產ノ方ノ事モ考ヘ、而

モ屢申上ゲマシタヤウナ譯デアリマ

ス、而シテ私ハ唯關稅ノミノ保護ト云

フガ如キ消極的ノコトデナク、更ニ一

歩進ンデ、積極的ニ大ニ國民協力シテ

其施設ヲ致スト云フコトガ、將來食糧

政策ノ解決ノ上ニモ資スベキコトデハ

ナイカ、是ガ爲ニハ先刻モ思上ゲマシ

タヤウニ、積極的施設モ宜イノデアル、

斯ウ申上ゲタ譯デアリマスカラ、要ハ

ナ次第デアリマス、何卒左様御諒承ヲ

願ヒマス。

○岡田委員 ドウモ私共腑ニ落チマセ

ヌガ、サウスルト政府ノ御見込デハ、現

在ハ農業者ハ別ニ生活ノ脅威ヲ受ケテ

居ナイ、マア是ナラドウカスウカヤレ

ルノダ、ソレニ其上關稅ヲ増シテ行クト

云フコトニナルト、農家ハ宜イカモ

ト云フコトニナルト、農家ハ宜イカモ

立チマセウ、私共ハ現在ノ狀態デハ農

家ガ脅威ヲ受ケテ居ルノダ、此間モ申

多イガ、又賣方ノ側カラ云ヘバ損ヲシ

テハ、原料品、食糧品ト云フモノハ無稅

云フ御言葉ガアリマスガ、ソレガ實際

ト一一致シナイヤウニ思ヒマス、ソレデ

ラ、一方農業ノ生產ノ方ノ事モ考ヘ、而

モ屢申上ゲマシタヤウナ譯デアリマ

ス、而シテ私ハ唯關稅ノミノ保護ト云

フガ如キ消極的ノコトデナク、更ニ一

歩進ンデ、積極的ニ大ニ國民協力シテ

其施設ヲ致スト云フコトガ、將來食糧

政策ノ解決ノ上ニモ資スベキコトデハ

ナイカ、是ガ爲ニハ先刻モ思上ゲマシ

タヤウニ、積極的施設モ宜イノデアル、

斯ウ申上ゲタ譯デアリマスカラ、要ハ

ナ次第デアリマス、何卒左様御諒承ヲ

願ヒマス。

○岡田委員 ドウモ私共腑ニ落チマセ

ヌガ、サウスルト政府ノ御見込デハ、現

在ハ農業者ハ別ニ生活ノ脅威ヲ受ケテ

居ナイ、マア是ナラドウカスウカヤレ

ルノダ、ソレニ其上關稅ヲ増シテ行クト

云フコトニナルト、農家ハ宜イカモ

ト云フコトニナルト、農家ハ宜イカモ

立チマセウ、私共ハ現在ノ狀態デハ農

家ガ脅威ヲ受ケテ居ルノダ、此間モ申

多イガ、又賣方ノ側カラ云ヘバ損ヲシ

ハ一割二分デアリマス、ソレカラ亞米
利加ノヤウナ農業經營ニ有利ナ條件國
ニ於テモ、時ニハ「アルゼンチン」、加奈
陀邊カラ這入テ脅カサレルカラ、一石
三圓十七錢ト云フ輸入稅ヲ課シテ居
ル、是ガ世界ノ大勢ト思ヒマス、無條件
デ食糧ハ何處カラデモ安ク買ッテ宜イ
ト云フコトハ、舊イ時代ニサウ云フコ
トガアッタカモ知レマセヌケレドモ、今
日デハ出來ル限り土地ヲ利用シナケ
レバナラヌト云フノガ、世界ノ大勢デ
アルト思ヒマス、私ハ各國デ執ツテ居ル
政策ノ上カラ、斯ウ云フ風ニ推量スル
ノデアリマス、要スルニ小麥ニ付テハ
色ニ反對論モアリマスガ、私ノ政府當
局ニ御聞シタイノハ、關稅ヲ増シタコ
トニ依テ生産ガ増スカドウカト云フ問
題ニ對スル政府當局ノ所信デアリマ
ス、曩ニ何方デアッタカ御質問ノアッタ
時ニ、政府ノ御方カラ或ル程度ノ御答
ガアッタヤウデアリマスガ、是ニハ十分
御自信ガナケレバナラヌト思ヒマス、
私ハ小麥ニ對スル生産ヲ増加スルコト
位、農業ノ經營カラ見テ自信ヲ持チ得
ルモノハナイト思フノデアリマス、小
麥ノ生産費ノ計算ヲ私共色ニ取ッテ
居リマスガ、少シク關稅ヲヘ増加スレ
バ、農家ハ全馬力ヲ掛ケテ增殖ニ努メ
ルコトガ出來ルノデアリマス、御承知
ノ通り關西ナドデ、麥作ニ利用シテ居
タニ毛作ノ一部分ハ、麥作ガ引合ハヌ
カラ紫雲英ヲ作ツテ居ルノデアルガ、麥

作ガ稍引合フモノニナツテ小麥ニ返シ、而シテ現在ノ小麥作ノ一石一斗強ノ收穫ヲ二割増トシテ、四百八十萬石位ヲ増シマスガ、此位ノコトハ何所デモ出来ルノデアリマス、ソレガ農家ノ心態ノ状態ガ、少シ値ガ高クナルト急ニ肥料ヲ増シタリ、值ガ少シ下ルト肥料ヲ控ヘタリスル状況デアルカラ、國策ノ根本ガ極ラナケレバ落付イテヤラヌ、此事ガ國民間ニ諒解サレ、ソレ程マニ増殖ノ途ノアルモノナラバ、少シノ値上ハ忍ベト云フコトデヤツテ行ケバ、必ズ生産ハ増殖スルヤウニナリマス、二三年間ニハ出來ナイカモ知レナイケレドモ、有利ナ條件ヲ備ヘテ獎勵スレバ實行ハ容易デアリマス、是ハ雞卵ノ御計畫ヨリハ一層容易デアルト思ヒマス、小麥ニ於テハ關西ノ二毛作地ダケデモ相當增收ノ計畫ハ立ツノデアリマス、之ニ關東ノ小麥ノ作ヲ加ヘテ計畫スルナラバ、豫定ノ目的ヲ達シ得ルノデアルカラ、相當自信ヲ以テ御進ミニナツテ宜カラウト思ヒマス、是等ハアノ「パンフレット」デ見タヤウナ數字トハ異ナツテ、相當根據ノアルコトデアリマスガ、之ニ就テドウ云フ御見込デアリマスカ、此點ヲ御聞キ致シタイ

○小山政府委員 段々御意見ヲ承リマシタガ、小麥ノコトニ付キマシテハ、畢ニ申上グマシタガ、是ハ世界的ノ食糧デアリマシテ、其價格ニ付テハ數字ヲ以テ御話ヲ申上グヌデモ、御覽ニナツテ

オキデノヤウデアリマスガ、價格ノ上
ニ非常ニ變動ガ多イノデアリマス、何
故カト申シマスト、是ハ其時ノ要求ニ
依ルコトデアッテ、先日モ一寸申シマシ
タガ、亞米利加ナドニ於ケル麥作ノ關
係上、ソレ等ノ事カラ、其間ニ騰落ガア
リマス、ソレガ爲ニ我國ニ這入ル麥ニ
於テモ其影響ヲ受ケテ、我國ノ作付段
別、又ハ麥ノ價格ガ始終變動スルノデ
アリマス、少シ麥ノ價格ガ上リマスレ
バ、作付段別ガ殖エ、少シ下落スルト減
ル、此點ニ於テ甚ダ安定ヲ缺クノデ、是
ハ何トカシテ、モウ少シ麥ヲ作ル農家
ノ利害ヲドウカシテ見タイト思ウテ居
リマス、併シ引合ハヌカラ作ラヌト言
ヘバ致方アリマセヌケレドモ、要スル
ニ裏作デアルカラ、ソコニ意ヲ用ユル
ノ大勢ノ支配ヲ受ケルノデアルカラ、
日本ガ獨リ麥ノ價格ノ安定ヲ計ラウト
シテモ出來ヌ、ソコデ救濟策ハドウス
ルカト云フト、是ハ一般ノ御質問ノ時
ニモ申シマシタガ、大麥ノ輸入ト「ビ
ル」會社ノ關係、之ヲ一例トシテ申上ゲ
マシタガ、製粉會社ト麥ノ栽培ヲスル
所ノ農家トノ年々ノ見込、協定ニ依テ
栽培スルヤウナコトガ將來行ハレマス
レバ、製粉會社ソレ自身モ、其營業上カ
ラ安心ヲ爲シ、麥ノ栽培者ソレ自身モ世
界ノ價格ノ支配ヲ受ケルコトナク、安
心シテヤツテ行ケルコトト思ヒマス、斯
ウ云フ風ニシタインデアリマスガ、サ

ウスルニハ製粉ニシタ時ノ歩止リノ關係ガサウ云フ風ニ行カヌノデアリマス、此步止リノ關係ニ付テハ先刻來申シマシタガ、品種ヲ改良シテ埼玉縣ニ於ケル品種ノヤウニナリマスレバ、製粉會社ハ何ヲ苦ンデ外國ノ麥ヲ買ヒマセウ、斯様ナ次第デアリマスカラ、生産能力ニ對シテ日本ノ麥ノ段別ヲ割當テテ將來ノ計畫ヲ立テルヤウニシタイト、斯ウ申上ゲテ居ソタ譯デアリマスガ、價格ガ今申シタ通り、或時ハ高値ニナリ、或時ハ下落スルコトニナルト、ドウシテモ世界ノ大勢ニ動カサレル譯デアリマスカラ、只今申上ゲタヤウナ對策モ一方ニ於テ行ハレルト致シマスナラバ、此麥ノ栽培ニ付テモ裏作トシテハ相當ナル成績ガ舉ガルデアラウト考ヘテ居ルノデアリマス、ドウゾ左様御承知ヲ願ヒマス

廣雅

ウスルニハ製粉ニシタ時ノ歩止リノ關係ガサウ云フ風ニ行カヌノデアリマス、此歩止リノ關係ニ付テハ先刻來申シマシタガ、品種ヲ改良シテ埼玉縣ニ於ケル品種ノヤウニナリマスレバ、製粉會社ハ何ヲ苦シニ外國ノ麥ヲ買ヒマセウ、斯様ナ次第デアリマスカラ、生産能力ニ對シテ日本ノ麥ノ段別ヲ割當テテ將來ノ計畫ヲ立テルヤウニシタイト、斯ウ申上ゲテ居ツタ譯デアリマスガ、價格ガ今申シタ通り、或時ハ高値ニナリ、或時ハ下落スルコトニナルト、ドウシテモ世界ノ大勢ニ動カサレル譯デアリマスカラ、只今申上ゲタヤウナ對策モ一方ニ於テ行ハレルト致シマスナラバ、此麥ノ栽培ニ付テモ裏作トシテハ相當ナル成績ガ舉ガルデアラウト考ヘテ居ルノデアリマス、ドウゾ左様御承知ヲ

○沼田委員 一寸此場合御聞キ致シタ
イ、私ハ岡田サントハ見解ガ違ヒマシ
テ、太田サン並ニ飯塚サント同ジ見解
ヲ持ッ者デアリマス、大體ニ於キマシテ
飯塚サン並ニ太田サンカラ質問サレ、
小山政務次官カラ御答ニナッテ居リマ
スガ、要スルニ消費者ト而シテ生産者
トノ調節ヲ取ッテ此案ヲ出サレタト承ッ
テ居ルノデアリマス、然ルニ此頃ノ都
下ノ新聞ヲ見マスルト、早速農林大臣
ハ小麦ニ對シマシテ、此七十七錢ヲバ
一圓五十錢ニ上ゲルト云フコトニ同意
ヲ表セラレタ、或ハ此計畫ヲ持ッテ居ラ
レル以上、政府ハ何所マデモ此原案ヲ
支持ナサレルカ、政府許リデアリマセ
ヌ、今ノ政府ハ憲政會デアル、憲政會ト
シテ何所マデモ此案ヲ支持ナサルト云
フ勇氣ト決心トヲ持ッテ居ラツヤル
カ、此事ヲ承リタイ、申スマデモナク小
麥粉ハ世界的食糧品デアルコトハ言フ
マデモナイ、我國ニ於キマシテモ食糧
品トシテハ必須ナモノデアリマス、米
麥ト申シマスレバ、總テ國民ニナクテ
ハナラヌモノデアリマス、之ヲ騰貴ス
ルト下落セシムルトハ直ニ生活ニ影響
ヲ與ヘル、生活ニ影響ヲ及ボスコトハ
延イテ勞働者ノ生活ニモ及ボシテ來
ル、斯クシテ有ユルモノニ大ナル打撃
ヲ與ヘルト云フコトハ、私ガ申スマデ
モナイコトデアリマス、關稅ノ改正ハ
何ヲ基トシテ居ルカト云ヘバ、即チ國
内ノ產業ヲ獎勵スルノヲ目的トシテ居

居ル所ノ此關稅定率法ガ、產業ヲ障碍スルモノガアルト云フヤウナコトガアト思ヒマス、申スマデモナク小麥粉ト云フモノノ殆ド七割ハ農家ノ需要ニナツテ居ルモノデアリマス、今岡田サンノ御議論ソヤウニ、此上、小麥粉一石ニ付テ二圓ヲ引上ルト致シマシテモ、農家ガ一世帶ニ付テ五段歩ノ小麥ヲ作リマスト、一段歩ノ收穫ガ一石一斗五升デアリマス、一石二圓ニ致シマシテモ其收穫ノ增加ハ僅ニ十一圓二十錢ニシカナラヌノデアリマス、而シテ十一圓二十錢ヲ得ル爲ニ、其生活必需品デアル所ノ小麥ト云フモノガ、延イテ幾多ノ物價ニ影響ヲ與ヘテ來ルノデアリマス、左様致シマスルト、却テ農家ヲ救フニアラズ、却テ農家ヲ苦メルト云フ反對ノ現象ヲ呈スルモノデハナイカト思ヒマス、此點ニ對シテ先ニ政府ニ御尋ね致シマシタ通り、原案ヲ支持スル勇氣ト決心トヲ持ツテ居ラレルカト云フ、此點ニ對シテ政府ノ御辯明ヲ得タイト思ヒマス

私ハ茲ニ辯明致シマスカラ、御諒承ヲ
願ヒマス、第二ハ曩ニ大藏大臣ノ言明
モアリ又農林大臣カラモ申上ゲマシタ
通り、生産保護、生活安定、此ニツノ方
針ノ下ニ其調和ヲ取テ、以テ之ヲ妥當
トシテ御審議ヲ願テ居ル譯デアリマ
ス、ドウゾ其精神ニ於テ宜シク御審議
ヲ願ヒタイト思ヒマス

○沼田委員 只今ノ小山政務次官ノ御
答辯ハ、先ニ飯塚サンニ御答ニナッタノ
ト同ジコトデアリマス、甚ダ要領ヲ得
テ居ルヤウデ、要領ヲ得テ居リマセヌ、
政府ハ何所マデモ原案ヲ支持スル御決
心ト勇氣トラ持ッテ居ラレルカト云フ
コトヲ伺ヒタイノデアリマス、只今仰
セラレルコトハ私共モ承知シテ居リマ
ス、併ナガラ如何ナルモノニ對シテモ
政府ハ何所マデモ此案ヲ支持スル爲ニ
努力スルカ、所謂決心ト勇氣トラ持ッテ
居ルカト云フコトヲ御尋スルノデアリ
マス、固ヨリ此問題ハ私共ガ申上ゲル
マデモナク、農村ノ重大ナル問題ノア
ルモノデアリマス、此點ニ對シテハ政
務次官ノ御説明ト私共ト同感デアリマ
ス、唯此關稅ヲ以テ農村ノ振興ヲ圖ル
ト云フコトハ間違テ居ルト思ヒマス、
僅ニ一石十一錢ヤ十二錢下ゲテ、其金
デ以テ農村ノ振興ニ資スルヤ否ヤト云
ト云フコトハ問題デアル、寧ロソレヨリモ
國ノ方針カラ行キマシテ、食糧ノ自給
自足ト云フ根本方針カラ考ヘテモ、左
様ナ姑息ナ手段ニ依テ食糧ノ自給自足

ガ出来ルト云フコトハ考ヘラレナイ
私ハ政府ノ御方針サヘ確立シテ居ツタ
ナラバ、農村振興トカ、或ハ農產物ノ保
護ト云フコトハ、當然消滅スル問題デ
アラウト思ヒマスガ、此點ニ對シマシ
テ、ドウカ先ニ飯塚君ニ御答ニナクヤ
ウナ御言葉ヲ繰返サレズ、明ニ御辯明
ヲ私ハ願ヒタイト思フノデアリマス
○小山政府委員 政府案トシテ議會ニ
提出シテ御協賛ヲ求メテ居リマス、之
ニ就テハ先日モ申上グマシタガ、相當
ニ調査研究ヲ致シマシタ、而シテ各種
ノ確的材料ニ依リ審議ヲ致シテ見マシ
タ提案デアリマス、之ヲ以テ政府ハ安
當ノモノナリト斯ウ考ヘテ提出致シマ
シタルノデアリマス、先刻來申上グマシ
タ所ノ趣旨ハ、何遍繰返シテ申シマシ
テモ同様デアリマス、妥當デアルト斯
ウ考ヘテ出シタノデアリマスカラ、官
シク御審議ヲ願ヒマス
○岩切委員 一寸質問致シタイ、先程
一寸席ヲ外シテ居リマシタカラ其間ニ
質問ガアッタサウデアリマス、重複ニナ
レバ申譯アリマセヌガ、一寸御尋致シ
タイ、是ハ油粕ノ問題デアリマスルガ、
九州ノ南ノ地方ナドニハ非常ニ影響ノ
種ノ油粕デナケレバ施肥ハ思フヤウニ
行カヌ、ソコデ菜種ノ油粕ト云フモノ
ガ——菜種ノ上ニ稅ガ引上ガッテ來ル
ト云フコトハ非常ニ重大ナ問題デアリ

マス、所ガ大豆ノ油ガ無税デ戻税ガアリマスル爲ニ、菜種ノ油ガ從來打撃ヲ受ケタ、今度改正ノ此第九條ノ第二項ニ「命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ輸入税ノ全部又ハ一部ノ免除又ハ拂戻ヲ爲スコトヲ得」ト云フ規定ガアリマスルガ、是ハ大豆ト同ジ程度ニ爲サルノデアリマスルカ、之ヲ一ツ

○矢部政府委員 此問題ハ先刻主税局長カラ御答シマシタ問題デアリマスルガ、只今私ガ代リマシテ重テ申上ダマス、御承知ノ如ク大豆ハ食糧ニモナリ一方油ニモ搾ラレル、而シテ油ニ搾ラレルモノハ主トシテ満洲カラ參リマス所ノ大豆デアリマス、ソレデ食糧ノ方ニ於キマシテハ満洲大豆ト日本大豆ガ競争ノ地位ニ立テ居ルノデアリマスルガ、此油ニ付キマシテハ満洲大豆ノ方ガ主トシテ用ヒラレル所カラ七十錢ト云フモノヲ戻シテ居リマス、所デ今回菜種竝ニ芥子ノ種ニ付キマシテ税率要ナル作物デゴザイマス、ソレハ農林省ノ當局カラ説明ガアルカト思ヒマスルガ、缺クベカラザル作物ニナッテト云フヤウナ次第デアリマシテ、現ニ簡單ニ申上ゲマスト大正二年ニ於キマシテハ多少ノ考ヲ及ボサナイデハナ萬町歩ニ減ジテ參リマシタ、之ニ就キ

ラヌト云フ所カラ、今回ノ税率モソレガ加味サレテ稍引上ゲラレマシタ、是ハ内地ノ耕作ヲ保護スル上ニ於テ已ムヲ得ザル結果デアリマス、是ガ爲メ油ノ方ノ原料ガ多少負擔ヲ増スト云フコトニナリマスガ、御承知ノ如ク菜種ノ油ト云フモノハ主トシテ食料ニ供セラレル、多少近來ハ大豆ノ油ガ混用サレルヤウニナリマシテ影響ガアラウト思ヒマセヌガ、此種油ト云フモノハ特別ノ用途ヲ持ツテ居ルノデアリマシテ、左程ノ影響ハナカラウト考ヘテ居リマス、ノミナラズ今回税率ガ變リマスレバ、戻税ノ方モ税率ガ改正ニナリマスノデ、此引上ゲラレタモノガ全部油ニ課セラレルト云フコトデナク、税率ガ上ゲラレマスルガ、ソレニ應ジテ戻税ノ方モ上リマスノデ、此上ゲラレタダケソレダケ油ニ課スルト云フ譯デハゴザイマセヌ、油ノ方モ考ヘナケレバナリマセズ、耕作ノ方モ考ヘナケレバナリマセズ、先ズ此位ノ程度ヲ以テ妥當致シタヤウナ次第デアリマス

○矢部政府委員 農林省ト相談ノ上提出スルコトニ致シマス
○加藤委員長 他ニアリマセヌカ——堀切君
○堀切委員 一寸——一ツ御質問申上
○岩切委員 萬町歩ニ減ジテ居リマスルガ、是ハ内地ノ低イ者ガ、競争ニ勝ツノデアル、經濟的考慮カラ參リマスト印度、支那ノ方面、支那ノ土人ノ農家ハ日本ノ農家ヨリ遙ニ生活程度ガ低イ、日本ノ生活程度ノ高イ農民ト對等ノ地位デ競争サセマスト云フト、生活程度ノ安イ、即チ豚

○加藤委員長 第二類ニ付テ他ニ御質問アリマセヌカ——奥村千藏君
○奥村委員 私ハ先程第二類ノ二十二割五分使ハルルモノデアルト云フコトニ主張シ、ソレバ、根據ガアッタンデスガ、政府ハ此食料殊ニ菓子、殊ニ嗜好品ノ中デモ贅澤ニ近イ方ニ主ニ使用サレルヤウニ言ハレテ居ル、政府ハ何ニ依テソレヲ信ジテ居ラレマスルカ、其材料ヲ一ツ明日マデニ提供シテ戴キタ

○加藤委員 第二類ニ付テ他ニ御質問アリマス

○堀切委員 成程政府ノ施設國民ノ自覺ニ依テ、生產費ヲ減ジテ行クト云フ

方法ハ、是ハ決シテ無イ譯ハナイト思フ、又農務當局ガ今日マデ左様ナ方針ニ向ッテ努力シ來ッタコトハ十分私モ認メテ居リマス、唯奈何セン、農業方面ニ於テハ大量生産ト云フヤウナコトモ中困難デ、即チ安イ資本ヲ使ツテ生産費ヲ安クスル、或ハ其他ニ於テ種苗ノ改良ヲ圖ルト云フヤウナ方面モアルニハアリマスガ、工業方面ト違ヒマシテ農業方面ニ於テハ殊ニ困難デアル、一例ヲ申上ゲマスレバ、即チ鳥卵、養鶏ノ如キモノモ是デアル、結局亞細亞大陸ノ生活程度ノ低イ農民ニ、日本ノ生活程度ノ高イ農民ガ經濟上ノ競争ニ於テ壓迫セラルルト云フ傾向ノ明カデアルト云フ際ニハ、政府トシテ、又是ハ特ニ國民トシテモ考慮ヲ運ラサナクチャナラヌノデヤナイカ、斯様ニ感ジテ居ルノデアリマス、只今ノ小山君ノ御答辯ヲ聽キマシテ、或ル程度マデ政府ノ意ノ在ル所ヲ諒ト致シマス、此上ハ尙ホ此上ニモ考慮スル餘地ガアルノデハナイカト云フコトヲ申上ゲテ、政府ノ御参考ニ供スル次第アリマス

○加藤委員長 他ニ最早御質問ハアリマセヌカ、アリマセヌケレバ、第二類ノ質問ハ是デ終了致シマス、ソレデハ今日ハ此程度デ止メマシテ、明日午前十時カラ時間ヲ厲行シマス

午後三時五十五分散會